

早稲田大学人間科学部

2 0 0 2 年 度

学部要項



SCHOOL OF HUMAN SCIENCES, WASEDA UNIVERSITY

目 次

I. 人間科学部の理念と特色	6
II. 人間科学部の構成（学科）	7
1. 人間基礎科学科	7
2. 人間健康科学科	7
3. スポーツ科学科	8
4. 転科について	8
III. 単位制，卒業必要単位数一覧，在学の年限	9
1. 単位制	9
2. 卒業必要単位数一覧	9
3. 在学の年限	10
4. 3年卒業制度	10
IV. 学科目配当	12
1. 学部指定科目	12
2. 学科指定科目	16
3. 人間科学テーマ科目	23
4. 人間科学プログラム	29
5. 自由科目	29

V. 科目履修要領	30
1. 各学科別科目履修方法	30
2. 本学部内他学科設置科目	39
3. 他箇所設置科目	39
4. 一般入学者以外の科目履修（外国学生，学士入学，転部）	41
5. 転科者の科目履修	43
6. 休学および留学からの復学者の科目履修	43
7. 休学者の前期履修取得単位取り扱い	43
VI. 資格取得に関する履修要領	44
1. 教員免許状の取得	44
2. その他の資格	47
VII. 授業，各種試験，成績	53
1. 掲示	53
2. 交通機関のストライキと授業	54
3. 気象警報発表と授業	55
4. 試験	56
5. 試験における不正行為	57
6. 成績	58
7. 9月卒業	59

VII. 学費	60
IX. 学籍事務	62
1. 学籍番号	62
2. 学生証（身分証明書）	63
3. 事務所の事務取り扱い時間	64
4. 各種証明書および学割証の発行	64
5. 諸願および諸届	65
X. 学生生活	67
1. 奨学金制度	67
2. 褒賞制度	68
3. 所沢キャンパス内における遺失物について	68
4. 学生相談	68
5. 課外活動	69
6. 早稲田大学学生健康保険組合	70
7. 学生教育研究災害傷害保険（学災保）	70
8. 学生応急貸付	70
9. アパート・貸間の紹介	70
10. アルバイトの紹介	71
11. 就職活動	71

X I. 施設.....	72
1. 総合健康教育センター所沢分室	72
2. 早稲田大学所沢図書館	73
3. 教室および学生共同利用室	75
4. スポーツ施設	77
5. 端末室.....	78
X II. 大学院への進学.....	79
X III. 早稲田大学派遣交換留学制度およびその他の留学	80
1. 留学の種類について.....	80
2. 他大学との学生交流について.....	81
3. その他の留学制度について	82
X IV. その他.....	83
1. 所沢キャンパスへの交通案内図	83
2. 自転車・自動車・オートバイの駐輪場・駐車場の利用について.....	84
3. 構内案内図.....	86
4. 建物・号館案内.....	87
X V. 早稲田大学学則（抜粋）	92

学 部 要 項

この学部要項は、諸君が学業を進めていくうえに必要不可欠な、学部の基本的な事項を収録したものであり、卒業時まで使用する。

なくさないように十分に注意するとともに、わからないことがある場合にはこの要項をよく読むこと。

2002年度

早稲田大学人間科学部

〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島二丁目579-15

電話042 (947) 6848 (ダイヤルイン)

Ⅰ．人間科学部の理念と特色

早稲田大学は1882（明治15）年創立以来、今日まで「進取の精神」をもって「学問の独立」を全うし、「学問の活用」をはかることを建学の教旨として、有為な人材を社会に輩出してきた。

この間に科学技術は急速に発達し、人間の生活は物質的にいちじるしく向上してきたが、本来の目的であるべき人間の尊厳や幸福がなおざりにされる面も見受けられるようになってきている。また、現在の学問体系は個々の専門分野に細かく分化され、一方においてそれが非常に深化、精密化を遂げる半面、他方において隣接領域との関連性を稀薄化させるという現象が指摘されている。

人間と人間をめぐる研究教育のこのような状況認識から、早稲田大学は新たな観点に立って、人間の存在、行動、発達を自然環境や社会環境などとの関連において学際的、総合的に把握することを研究教育の目的とする人間科学部を設立することになった。したがって、この人間科学部は人間の諸問題を探求し、予測される問題や障害の解決に資する知識、技能、組織、制度などを研究し、それらの成果を基盤に、種々の環境と調和を保ちながら、人間愛に徹し、人間生命の真の発達に寄与しうる有能な人材の育成を行うという、高邁かつ必須の理念をかかげ、狭山所沢キャンパスに教育・研究の場を得て発足した。

このため人間科学部では、多領域からの研究が、人間の生涯にわたる発達に関連づけられ、総合されるような体制がとられている。したがって、教育面においても人間の総合的把握という主旨をつらぬくため、人間科学部としての特徴をカリキュラムに織り込んでいく。たとえば、本学部には人間基礎科学科、人間健康科学科、スポーツ科学科の3学科があるが、カリキュラムは、それぞれの学科の中核となる演習及び実験実習や、初年度から専門の教育研究にふれる基礎的な科目を除けば、学科の枠組みにとらわれず、広く自由に選択できるように配慮されている。

さらに、大学院の人間科学研究科、人間総合研究センターをも含め、本学部の教育・研究は常に3学科が相互に関連をとりながらおこなわれていくことになる。いわゆる学際的研究・教育の先導的役割を果たすのが本人間科学部であるといえよう。

Ⅱ．人間科学部の構成（学科）

1．人間基礎科学科

この学科は、人間の存在を生命、行動、心理、社会という側面から学際的にとらえ、またそのような人間の創造的な発達について、総合的に研究し、教育することを目的としている。

そのため、個体としての生殖・誕生から成長・成熟を経て、死に至るまでの身体、行動、精神活動、社会活動の諸側面における生涯発達の過程を、歴史的状況、社会環境および自然環境との係わりを特に重視して追究する。

この学科では、人間を総合的に把握し、人間の主体的な発達可能性を引き出しうる能力を涵養して、研究、行政、企業、学校、地域社会などさまざまな分野で指導的な役割を果たす人材を養成する。したがって、この学科のカリキュラムの編成は、人間に関する、基礎的な学問なるべく多方面にわたって、履修するようになっている。このことによって人間を総合的に理解する態度の涵養を目指している。なお、その研究・教育は、人間の価値についての主観を尊重しつつも、客観的、科学的態度をもってなされることはいうまでもない。

卒業後の進路としては、大学院進学（研究者）、公務員、民間企業、病院等幅広い分野での活躍が期待されている。

2．人間健康科学科

現代のように複雑化した社会においては、人間の環境と健康について考えることは重要な課題であるが、人間生活のさまざまな場面で実際に問題を解決していくには、教育、医療、産業などの幅広い分野からのアプローチが必要となる。人間のより良き生活を追究する学際的な研究・教育が、人間健康科学科の目的である。

この学科には、社会・文化、環境心理、人間工学、臨床心理の4つの系が設定されているが、それらの基礎を共通に学習した上で、以下の専門分野を選択する。

社会構造と生活構造の関係を分析する文化研究、社会問題・福祉・レクリエーションなどの地域研究、環境問題や生活環境の評価の研究、教育環境と学習行動の研究、マルチメディアなどの情報環境の研究、各種の作業環境における人間の認知や遂行の研究、生活の中で必要とされる色彩や空間のデザインやツールやソフトの開発・評価の研究、現代生活に現れる心身の健康問題に対処する各種の心理療法の研究、カウンセリングの技術とその

実践研究、医療社会における生命倫理の研究、などが主要な専門分野である。

卒業後の進路は、工業、建設、食品、情報処理、販売、サービス、マスコミ、金融、運輸、商社、教育・医療現場での心理職、各種公務員など多岐にわたり、また大学院進学者も多い。

3. スポーツ科学科

科学技術の進歩は、私達に余暇の増大や平均寿命の延長をもたらした反面、運動不足による体力の低下や成人病の増加など、さまざまな問題を投げかけている。このような中において、スポーツは文化的役割を担うとともに、心身の健康を増進させて、豊かで活力に満ちた生涯を創造するものとして期待されている。

スポーツ科学科では、これらの期待に応えるべく、健康・体力づくり、競技力の向上、スポーツ文化の継承と創造などについて、スポーツ科学の視点から総合的に教育・研究を行う。そして具体的には、学校、地域、職場でのスポーツ・レクリエーション活動を通じて、運動技能や健康・体力づくりについて指導しうる人材や、広くスポーツ産業の分野で活躍できる人材を養成することを目的とする。そのため、スポーツ技能に秀でた学生はもとより、保健体育科教育あるいはスポーツ科学や健康・体力科学などの研究領域に取り組もうとする学生が、思う存分学習できるように幅広い分野のカリキュラムが組まれている。

卒業後の進路としては研究者（大学院進学）、保健体育科教員、競技選手のコーチ、スポーツ・レクリエーションの指導者、民間企業等が挙げられる。

4. 転科について

3学科とも転科制度を実施している。2年次に編入するため、対象者は1年生のみ（1年次末に出願）である。出願日程・選考方法などの詳細は掲示等で確認すること。

Ⅲ. 単位制, 卒業必要単位数一覧, 在学の年限

1. 単位制

単位制とは, 一定の基準に従って個々の授業科目を履修し, それぞれの試験に合格することによって単位を取得していき, 総単位数が所定数に達したとき学士の学位が与えられる制度である。

単位数に関しては, 早稲田大学学則抜粋(92ページ)を参照のこと。本学部の1学年度は, 前期・後期の2期に分かれ, それぞれ15週ずつ計30週からなっており, 学科目はその授業期間により, 通年科目(前・後期を通じて行われる学科目), 前期科目(前期のみ行われる学科目), 後期科目(後期のみ行われる学科目)に分かれる。各学科目の授業期間・週時間・単位数は別表の学科目配当表を参照のこと。

2. 卒業必要単位数一覧

学 科 名	学 部 指 定 科 目						学科指定科目		人 間 科学 テ ー マ 科目	人 間 科学 プ ロ グ ラ ム	卒 業 必 要 単 位 数
	総 合 講 座		コミュニケーション			卒 業 研 究	必 修 科 目	選 択 科 目			
	人 間 科学 Ⅰ	人 間 科学 Ⅱ	第 一 外 国 語	第 二 外 国 語	情 報 処 理						
人間基礎科学科	4	4	6	8	2 ～ 8	8	24	9 以上	40 以上	(4)	124
人間健康科学科	4	4	6	8	2 ～ 8	8	20	14 以上	40 以上	(4)	124
スポーツ科学科	4	4	6	8	2 ～ 8	8	12	40 以上	40 以上	—	124

3. 在学の年限

本学部においては、学則第5条により、在学年数は8年を超えることができない。（転科者については、前所属学科の在学年数も含める）

なお、学士入学者の在学年数は4年、転部（2年編入）者の在学年数は6年を超えることができない。

また、入学後4年経過しても一年次における基準単位（卒業必要単位数の4分の1）を取得できない場合は、学則第47条第2号により退学となる。

※ 在学年数には休学・留学期間を含めない。

4. 3年卒業制度

学校教育法等の一部改正により、在学期間の特例として、当該大学の定める単位（卒業要件）を優秀な成績で修得したと認める場合には、3年以上4年未満の在学で学部を卒業できることとなった。これを受け、本学部では以下のとおり3年卒業制度を設けている。

1) 出願資格等

3年卒業制度への出願は、1年終了時または2年終了時に受け付ける。

出願資格はつぎのとおり。

- 1年終了時：卒業必要単位を36単位以上取得していること。

1年次のSAが2.70以上であること。

- 2年終了時：卒業必要単位を76単位以上取得していること。

2年次までのSAが2.70以上であること。

※ SAとは成績を点数に換算して科目数で割り、1科目あたりの平均を算出したもの。

換算値はAが3点、Bが2点、Cが1点、Dが0点、Fなどの不合格評価が－1点。

SAについての詳細は、本要項の「成績」に関する項目を参照のこと。

2) 3年卒業制度の適用

出願者について面接を行い、本制度の適用可否を決定する。定員は各学年若干名とする。1年終了時に本制度の適用を許可された者については、2年終了時に面接を行い、3年卒業に必要な水準の成績を維持しているかどうか確認する。その際、3年卒業条件を満たすことが困難と判断された場合は、本制度の適用解除を行うことがある。

3) 科目履修上の配慮

- 1年終了時に本制度の適用が許可された者は、2年次および3年次の年間履修制限単位を各8単位増加し各48単位とする。
- 2年終了時に本制度の適用が許可された者は、3年次の年間履修制限単位を8単位増加し48単位とする。
- 科目登録上の学年は、原則として1年加算する。
- 演習、卒業研究など科目登録に際し前提条件がある科目について、当該条件を満たしていない場合でも、本制度の性質上やむを得ないときは登録を許可する。

4) 3年卒業の判定について

本制度の適用者について、以下の条件をすべて満たした場合に3年卒業を許可する。

- ① 3年前期までのS Aが2.50以上であること。
- ② 3年終了時に、取得単位が卒業条件を満たしていること。
- ③ 卒業研究の評価が「A」であること。

5) 注意事項

- 3年卒業となった場合の学費の取り扱いは、本制度の募集掲示にて周知する。
- 3年卒業ができなかった場合は、通常どおり4年以上在学して卒業することとなる。

IV. 学科目配当

本学部には、以下の各表に示す学科目が設置されている。単位履修基準表（各学科別科目履修の項に掲載）および各配当年次、注意事項等をよく理解した上で、正しく履修すること。

配当年次は「履修すべき学年」という観点で記載しているが、登録規則上は下級学年配当科目は履修可能であるので誤解しないこと（例：「1～2」年配当科目は3年生以上も履修できる）。

なお、個々の科目の配当は年度により変更があり得るので、毎年度の科目登録資料等を参照すること。

学 部 指 定 科 目						学科指定科目		人間科学テーマ科目	人間科学プログラム	自由科目 (注)
総合講座		コミュニケーション			卒業研究	必修科目	選択科目			
人間科学Ⅰ	人間科学Ⅱ	第一外国語	第二外国語	情報処理						

注) 自由科目…各自が選択して履修でき、登録制限単位に含まれず、卒業必要単位にも算入されない科目。

1. 学部指定科目

1) 総合講座

総合講座は、人間科学の教育の特徴である多面的、学際的思考を育てることを目的として設置された。「人間科学Ⅰ」、「人間科学Ⅱ」の2つの科目群からなる。卒業までにⅠとⅡからそれぞれ2科目以上、計4科目以上を必ず履修しなければならない。

	学科目	配当年次	単位
人間科学Ⅰ	発達	1～2	2
	からだ	1～2	2
	食	1～2	2
	うごく	1～2	2
人間科学Ⅱ	ことば	3～4	2
	エシックス	3～4	2
	東洋医学の人間科学	3～4	2
	メディア	3～4	2
	ストレス	3～4	2
	コミュニケーション	3～4	2

2) コミュニケーション

本学部において、外国語は国際的なコミュニケーションの基礎として位置付けられ、情報処理はコミュニケーションの手段として必須のものと位置付けられている。これらの習熟を目的として、コミュニケーションに、「第一外国語」、「第二外国語」、「情報処理」が設置されている。

また、外国語の上級クラスとして6つの科目が設置されている。

(1) 第一外国語

第一外国語として英語6単位（英語は全科目とも半期1単位）を必修とする。

履修内訳は、英語ⅠAを2クラス2単位、英語ⅠBを2クラス2単位、英語Ⅱを2科目2単位とする。

英語ⅠA、英語ⅠBについては、同一教員のクラスを履修することはできない。

英語Ⅱについては内容、授業レベルにより下記のとおり複数の科目が用意されているので、2科目2単位を選択履修する。なお、英語Ⅱは最大4科目4単位まで履修することができ、取得単位は卒業必要単位に算入される。

学科目	配当 年次	単位	学科目	配当 年次	単位
英語ⅠA	1	1	英語Ⅱ オーラルコミュニケーション Audio A	2	1
英語ⅠB	1	1	英語Ⅱ オーラルコミュニケーション Audio B	2	1
			英語Ⅱ オーラルコミュニケーション Movies A	2	1
			英語Ⅱ オーラルコミュニケーション Movies B	2	1
			英語Ⅱ オーラルコミュニケーション Advanced Speaking	2	1
			英語Ⅱ リーディング Newspaper/magazine A	2	1
			英語Ⅱ リーディング Newspaper/magazine B	2	1
			英語Ⅱ リーディング Extensive Reading	2	1
			英語Ⅱ ライティング Intermediate Writing	2	1
			英語Ⅱ ライティング Advanced Writing	2	1

英語標準テスト

1年生全員を対象に、年度内に英語標準テスト（TOEIC-IP）を実施する。英語Ⅱの各科目は、このスコアにより授業レベルを表示する。なお、このテストのスコアは、次項で説明する「英語授業免除制度」の申請に利用することはできない（TOEIC-IPは申請に必要な公式認定書が発行されるテストではないため）。

英語授業免除制度

TOEFL 550以上、COMPUTER-BASED TOEFL 220以上、またはTOEIC 750以上の得点をあげた者には、英語の授業を免除し、その時点以後の未履修の英語の成績に A を与える。詳細については、事務所に問い合わせること。

(2) 第二外国語

第二外国語は、各語学とも4科目8単位（第二外国語は全科目とも通年2単位）を必修とする。なお、第二外国語はいかなる理由があっても変更を認めない。

学 科 目		配当年次	単 位	学 科 目		配当年次	単 位
独語Ⅰ	イ	1	2	独語Ⅱ	イ	2	2
	ロ	1	2		ロ	2	2
仏語Ⅰ	イ	1	2	仏語Ⅱ	イ	2	2
	ロ	1	2		ロ	2	2
露語Ⅰ	イ	1	2	露語Ⅱ	イ	2	2
	ロ	1	2		ロ	2	2
中国語Ⅰ	イ	1	2	中国語Ⅱ	イ	2	2
	ロ	1	2		ロ	2	2
スペイン語Ⅰ	イ	1	2	スペイン語Ⅱ	イ	2	2
	ロ	1	2		ロ	2	2

(3) 外国語上級クラス

外国語上級クラスとして、上級英語Ⅰ・Ⅱ、上級独語Ⅰ・Ⅱ、上級仏語Ⅰ・Ⅱが自由科目として設置されている。

学 科 目	配当年次	単 位
上級英語Ⅰ・Ⅱ	1～4	各2
上級独語Ⅰ・Ⅱ	1～4	各2
上級仏語Ⅰ・Ⅱ	1～4	各2

(4) 情報処理

情報処理には、必修科目である情報処理Ⅰと、その他の選択科目がある。選択科目に関しては、3科目（6単位）までを卒業必要単位に算入できる。これを超えた単位数は卒業必要単位には算入できないが、登録制限単位（科目履修要領を参照）には含まれる。

選択科目のうち情報処理Ⅱを履修するためには、情報処理Ⅰを取得済みか、情報処理Ⅰを同一年度に履修しなければならない。

情報処理Ⅱ以外の選択科目を履修するためには、情報処理Ⅰ・Ⅱを両方取得済みであることが望ましい。

学 科 目	配当年次	単 位
情報処理Ⅰ	1	2
情報処理Ⅱ	1～4	2
コンピュータによる統計処理	2～4	2
U n i x入門	2～4	2
マルチメディア表現及び技術	2～4	2
コンピュータ及び情報処理	2～4	2
情報社会及び情報倫理	2～4	2
情報と職業	2～4	2

3) 卒業研究

卒業研究は必修であり、指導教員の指導の下で行う。

ただし、卒業研究を履修するには、その年度に卒業できる条件を満たしていなければならない。

学 科 目	配当年次	単 位
卒 業 研 究	4	8

2. 学科指定科目

〔人間基礎科学科〕

《必修科目》

6科目24単位を必修とする。

卒業研究を行うには、原則として人間基礎科学実習と演習を履修済であることが前提となっているので注意すること。

学 科 目	配当年次	単位	学 科 目	配当年次	単位
人間基礎科学ⅠA	1	4	人間基礎科学実習	1	4
人間基礎科学ⅠB	1	4	統 計 学	1	4
人 間 基 礎 科 学 Ⅱ	2	4	演 習	3	4

《選択科目》

- ア) 生物学系、心理行動学系、社会学系のうち2つ以上の学系から合わせて3科目以上履修しなければならない。
- イ) これらの科目の履修にあたっては、それに関連した人間科学テーマ科目をできるだけ履修することが望ましい。
- ウ) 卒業研究を行うには、これらの科目のうち最低1科目を履修済であることが前提となっているので注意すること。

学系	学 科 目	配当年次	単位	学系	学 科 目	配当年次	単位
生物学系	発 生 学 実 習	2～4	3	社会学系	村落社会学実習Ⅰ	2～4	3
	細胞組織学実習	2～4	3		村落社会学実習Ⅱ	2～4	3
	神経内分泌学実習	2～4	3		家族社会学実習Ⅰ	2～4	3
	遺 伝 学 実 習	2～4	3		家族社会学実習Ⅱ	2～4	3
	薬 理 学 実 習	2～4	3		都市社会学実習Ⅰ	2～4	3
	分子細胞生物学実習	2～4	3		都市社会学実習Ⅱ	2～4	3
	生 態 学 実 習	2～4	3		産業社会学実習Ⅰ	2～4	3
心理行動学系	心理学研究法実習Ⅰ	2～4	3		産業社会学実習Ⅱ	2～4	3
	心理学研究法実習Ⅱ	2～4	3				

〔人間健康科学科〕

教員資格取得の教科に関する科目履修については、「教員免許状の取得」の項を参照のこと。

《必修科目》

8科目20単位を必修とする。

学 科 目	配当年次	単位	学 科 目	配当年次	単位
基 礎 講 義	1	4	人間と社会	2	2
統 計 学 I	1	2	心 と 健 康	2	2
統 計 学 II	1	2	人 間 工 学	2	2
人間と環境	2	2	演 習	3	4

《選択科目》

選択科目のうち、実験調査研究法から3科目（6単位）、講義科目Aから4科目（8単位）以上を、それぞれ選択しなければならない。講義科目Bおよび情報処理実習は卒業要件上の履修条件はない。

（実験調査研究法）

学 科 目	配当年次	単位	学 科 目	配当年次	単位
人間機能の計測および処理法	1～2	2	フィールドワーク論	1～2	2
心 理 学 的 測 定 法	1～2	2	イメージと暗示分析	1～2	2
心 理 検 査 法	1～2	2	人 間 の 応 答 特 性	1～2	2
行 動 検 査 法	1～2	2	運動機能特性の計測評価手法	1～2	2
事 例 研 究 法	1～2	2	イ マ ジ ネ ー ル 分 析	1～2	2
プ ロ ト コ ル 分 析	1～2	2	物 質 文 化 研 究 法	1～2	2
デザイン評価法と色彩心理検査法	1～2	2	生 理 学 測 定 法	1～2	2
映像・音響メディア制作・評価	1～2	2			

(講義科目A)

学 科 目	配当年次	単位	学 科 目	配当年次	単位
環 境 認 知 論	2～4	2	分 析 的 心 理 療 法	2～4	2
教 育 デ ザ イ ン 論	2～4	2	臨床バイオエシックス	2～4	2
環 境 ・ 行 動 論	2～4	2	人 間 行 動 と 安 全	2～4	2
レクリエーション論	2～4	2	バーチャルリアリティー	2～4	2
日 本 文 化 研 究	2～4	2	特 殊 環 境 情 報 論	2～4	2
異 文 化 研 究	2～4	2	Intercultural Communication	2～4	2
比 較 社 会 論	2～4	2	福 祉 医 用 人 間 工 学	2～4	2
認 知 行 動 療 法	2～4	2	交 流 分 析 療 法	2～4	2
学 校 カ ウ ン セ リ ン グ	2～4	2	福 祉 生 体 機 能 学	2～4	2

(講義科目B)

学 科 目	配当年次	単位	学 科 目	配当年次	単位
心 理 学	1～4	2	社 会 保 障 論	1～4	2
産 業 心 理 学	1～4	2	社 会 福 祉 概 論	1～4	2
福 祉 と 栄 養 科 学	1～4	2			

(情報処理実習)

学 科 目	配当年次	単位	学 科 目	配当年次	単位
情報システム論及び実習	1～4	2	情報通信ネットワーク論及び実習	1～4	2

〔スポーツ科学科〕

教員資格取得の教科に関する科目履修については、「教員免許状の取得」の項を参照のこと。

《必修科目》

8科目12単位を必修とする。

学 科 目	配当年次	単位	学 科 目	配当年次	単位
スポーツ科学基礎演習	1	2	演 習 II A	3	2
ス ポ ー ツ 科 学 概 論	1	2	演 習 II B	4	2
演 習 I (4 科 目 必 修)	2	1			

《人間科学テーマ科目（T-XI：体力とスポーツ技術）における必修科目》

「スポーツ実習Ⅰ」および「スポーツ実習Ⅱ」は、体育局に設置されている「スポーツ実習Ⅰ」「スポーツ実習Ⅱ」を人間科学部のカリキュラムの中に位置付けたものである。（これらの科目はオープン科目であるが、人間科学部ではオープン科目としての取り扱いはされないので十分注意すること。）

これらの科目の中から、2科目4単位を必修とする。

人間科学部における「スポーツ実習Ⅱ」は、体育局の「スポーツ実習Ⅱ」（上級科目）を指すのではなく、スポーツ実習の2つ目という意味を持つ科目名である。履修すべき2科目4単位の内訳は、種目、Ⅰ・Ⅱの別を問わないのでよく理解すること。

設置されている種目等の詳細については「保健体育科目 履修要項 シラバス」を参照のこと。

学 科 目	配当年次	単位	学 科 目	配当年次	単位
ス ポ ー ツ 実 習 Ⅰ	1～4	2	ス ポ ー ツ 実 習 Ⅱ	1～4	2

《選択科目》

スポーツ科学科の選択科目は、下表のA群・B群・C群・D群の4つの科目群からなる。これらの科目群と人間科学テーマ科目T-X～T-XⅡのなかから合わせて40単位履修しなければならない。

また、A群・B群・C群の3つの科目群から、それぞれ4単位以上を必ず履修すること。A群については、スポーツ方法実習Ⅰあるいはスポーツ方法実習Ⅱの中から2単位以上を履修しなければならない。

なお、スポーツ方法実習Ⅰ、スポーツ方法実習Ⅱおよびスポーツ指導法実習は、16単位まで卒業必要単位に算入できる。これを超えた単位数は卒業必要単位には算入できないが、登録制限単位には含まれる。

A群

学 科 目	配当年次	単位	学 科 目	配当年次	単位
スポーツ方法実習Ⅰ(フィットネス)	1～4	1	スポーツ方法実習Ⅰ(器械運動)	1～4	1
スポーツ方法実習Ⅱ(フィットネス)	1～4	1	スポーツ方法実習Ⅱ(器械運動)	1～4	1
スポーツ方法実習Ⅰ(陸上)	1～4	1	スポーツ方法実習Ⅰ(水泳)	1～4	1
スポーツ方法実習Ⅱ(陸上)	1～4	1	スポーツ方法実習Ⅱ(水泳)	1～4	1
スポーツ方法実習Ⅰ(バレーボール)	1～4	1	スポーツ方法実習Ⅰ(ソフトテニス)	1～4	1
スポーツ方法実習Ⅱ(バレーボール)	1～4	1	スポーツ方法実習Ⅱ(ソフトテニス)	1～4	1
スポーツ方法実習Ⅰ(バドミントン)	1～4	1	スポーツ方法実習Ⅰ(硬式テニス)	1～4	1
スポーツ方法実習Ⅱ(バドミントン)	1～4	1	スポーツ方法実習Ⅱ(硬式テニス)	1～4	1
スポーツ方法実習Ⅰ(卓球)	1～4	1	スポーツ方法実習Ⅰ(卓球)	1～4	1
スポーツ方法実習Ⅱ(卓球)	1～4	1	スポーツ方法実習Ⅱ(卓球)	1～4	1
スポーツ方法実習Ⅰ(サッカー)	1～4	1	スポーツ方法実習Ⅰ(バドミントン)	1～4	1
スポーツ方法実習Ⅱ(サッカー)	1～4	1	スポーツ方法実習Ⅱ(バドミントン)	1～4	1
スポーツ方法実習Ⅰ(柔道)	1～4	1	スポーツ方法実習Ⅰ(ソフトボール)	1～4	1
スポーツ方法実習Ⅱ(柔道)	1～4	1	スポーツ方法実習Ⅱ(ソフトボール)	1～4	1
スポーツ方法実習Ⅰ(剣道)	1～4	1	スポーツ方法実習Ⅰ(スキー)	1～4	1
スポーツ方法実習Ⅱ(剣道)	1～4	1	スポーツ方法実習Ⅱ(スキー)	1～4	1
スポーツ方法実習Ⅰ(ダンス)	1～4	1	スポーツ方法実習Ⅰ(レスリング)	1～4	1
スポーツ方法実習Ⅱ(ダンス)	1～4	1	スポーツ方法実習Ⅱ(レスリング)	1～4	1
スポーツ方法実習Ⅰ(ニュースポーツA)	1～4	1	スポーツ方法実習Ⅰ(合気道)	1～4	1
スポーツ方法実習Ⅰ(ニュースポーツB)	1～4	1	体力トレーニング論	1～4	2
スポーツ方法実習Ⅰ(ニュースポーツC)	1～4	1	測定評価論	1～4	2
スポーツ方法実習Ⅰ(筋力トレーニング)	1～4	1	コーチング論	1～4	2
スポーツ方法実習Ⅱ(筋力トレーニング)	1～4	1			

B群

学 科 目	配当年次	単位	学 科 目	配当年次	単位
ス ポ ー ツ 社 会 学	1～4	2	ス ポ ー ツ 文 化 論	1～4	2
ス ポ ー ツ 法 学	1～4	2	ス ポ ー ツ 経 営 学	1～4	2
			ス ポ ー ツ 経 済 学	1～4	2

C群

学 科 目	配当年次	単位	学 科 目	配当年次	単位
バ イ オ メ カ ニ ク ス	1～4	2	ス ポ ー ツ 生 理 学	1～4	2
ス ポ ー ツ 医 学	1～4	2	ス ポ ー ツ 心 理 学	1～4	2

D群

学 科 目	配当年次	単位	学 科 目	配当年次	単位
スポーツ技術論(陸上競技)	2～4	2	スポーツ指導法実習(陸上)	2～4	2
スポーツ技術論(水泳)	2～4	2	スポーツ指導法実習(バレーボール)	2～4	2
スポーツ技術論(ダンス)	2～4	2	スポーツ指導法実習(バスケットボール)	2～4	2
スポーツ技術論(サッカー)	2～4	2	スポーツ指導法実習(サッカー)	2～4	2
スポーツ技術論(ソフトテニス)	2～4	2	スポーツ指導法実習(柔道)	2～4	2
スポーツ技術論(レスリング)	2～4	2	スポーツ指導法実習(剣道)	2～4	2
測定評価演習	2～4	2	スポーツ指導法実習(器械運動)	2～4	2
文献講読演習	2～4	2	スポーツ指導法実習(水泳)	2～4	2
			スポーツ指導法実習(フィットネス)	2～4	2
			スポーツ指導法実習(ダンス)	2～4	2
			音楽理論・実習	2～4	2
			アスレチック コンディショニング実習	2～4	2
			アスレチック トレーニング論	1～4	2
			アスレチック リハビリテーション論	1～4	2
			アスレチックトレーニング特論・実習	3～4	1
			スポーツ政策論	1～4	2
			スポーツファイナンス	1～4	2

《人間科学テーマ科目》

(T-X：スポーツと現代社会)

学 科 目	配当年次	単位	学 科 目	配当年次	単位
生涯スポーツ論	1～4	2	スポーツ産業論	1～4	2
コミュニティスポーツ論	1～4	2	スポーツマーケティング論	1～4	2
スポーツ教育論	1～4	2	社会調査法	1～4	2
スポーツ行政論	1～4	2	民族スポーツ調査法	1～4	2
スポーツ情報論	1～4	2			

(T-XⅠ：体力とスポーツ技術)

学 科 目	配当年次	単位	学 科 目	配当年次	単位
人体の構造	1～4	2	運動学	1～4	2
身体形態学(解剖学を含む)	1～4	2	運動制御論	1～4	2
スポーツ栄養学	1～4	2	運動処方論	1～4	2
メンタルトレーニング論	1～4	2	スポーツ実習Ⅰ	1～4	2
スポーツ工学	1～4	2	スポーツ実習Ⅱ	1～4	2

(T-XⅡ：保健と医療)

学 科 目	配当年次	単位	学 科 目	配当年次	単位
基礎栄養学	1～4	2	精神医学	1～4	2
衛生学	1～4	2	画像医学	1～4	2
公衆衛生学	1～4	2	救急医学	1～4	2
学校保健	1～4	2	救急処置法	1～4	2
精神保健概論	1～4	2	臨床スポーツ医学	1～4	2
心身医学	1～4	2	保健社会学	1～4	2
医学心理学	1～4	2	医療人類学	1～4	2

3. 人間科学テーマ科目

人間科学テーマ科目は、人間科学を構成する科目からなり、それらの科目は、人間の重要な面を象徴する12のテーマのもとにまとめられている。

各学科とも、卒業までに、5つ以上の異なったテーマから計20科目（40単位）以上を履修しなければならない。

《テーマとその内容》

テーマ（T）	内容
T－Ⅰ Human Science Today	人間に関わるその時々に関題となるテーマをとりあげて講義をする科目。
T－Ⅱ 生命と進化	人間のからだの構造と機能、生命機能の普遍性を学ぶ。また、人間が地球上の生物のどのような位置をしめるか、生物の進化とともに考える。
T－Ⅲ 心と行動	人間のふるまいは心の動きにより生じる。心の動きには規則性があることを理解し、人間の行動を考える。
T－Ⅳ 記号と情報	人間の意志の疎通に必要な言語やシンボルの機能を理解する。また、人間社会は様々な記号による情報伝達によってつくりあげられたシステムであることを学ぶ。
T－Ⅴ 人間形成と適応	人間性は社会との関わりの中で形成されていくことと人間が社会環境に適応していく過程を学ぶ。
T－Ⅵ 社会と環境	人間をとりまく環境は自然と社会よりなりたつ。それらの環境と人間との関わり合いについて学ぶ。
T－Ⅶ 生活と福祉	人間の生活における福祉活動は個人を助け、社会を支える基盤となる。福祉の考え方とシステムを学ぶ。また高齢化社会の生涯学習のあり方を考える。
T－Ⅷ 文化と歴史	人間がつくりだした時代と地域により多様な形をとる文化の相違を知り、その根底にある社会的、歴史的基盤を学ぶ。

テーマ (T)	内容
T-Ⅸ 身体と表現	人間は身体や感性をとおして自己を表現する。そのさまざまな方法を追及し、社会的意味を考える。
T-X スポーツと現代社会	人間がおこなうスポーツの多様性を、それをとりまく現代社会との関わりから考える。
T-XⅠ 体力とスポーツ技術	人間がスポーツを通しておこなう身体運動の原理を学び、体力の増強や高度なスポーツ技術の可能性とその限界について考える。
T-XⅡ 保健と医療	人間のからだの健康を維持し向上させるための保健のあり方や、障害や疾患から回復させるための医療の役割について学ぶ。

《人間科学テーマ科目一覧》

(T-I : Human Science Today)

学 科 目	配当年次	単位	学 科 目	配当年次	単位
巨大システムと人間	1～4	2	トレーニングを科学する	1～4	2
介 護	1～4	2	スポーツ・ビジネス	1～4	2
イスラムとユダヤ	1～4	2			

(T-II : 生命と進化)

学 科 目	配当年次	単位	学 科 目	配当年次	単位
生 物 学 概 論	1～4	2	遺 伝 学	1～4	2
数 学	1～4	2	生 化 学	1～4	2
化 学	1～4	2	薬 理 学	1～4	2
物 理 学	1～4	2	分子細胞生物学	1～4	2
細胞組織学	1～4	2	放射能生物学	1～4	2
生 理 学	1～4	2	進 化 学	1～4	2
内 分 泌 学	1～4	2	自 然 人 類 学	1～4	2
免 疫 学	1～4	2	放射能生物学実習	1～4	3
発 生 生 物 学	1～4	2			

(T-III : 心と行動)

学 科 目	配当年次	単位	学 科 目	配当年次	単位
脳神経科学	1～4	2	動機づけ理論	1～4	2
精神生理学	1～4	2	非言語行動論	1～4	2
神経行動学	1～4	2	認知心理学	1～4	2
行動学概論	1～4	2	応用実験心理学	1～4	2
比較行動学	1～4	2	エルゴノミクス/人間工学	1～4	2
発達行動学	1～4	2			

(T-IV：記号と情報)

学 科 目	配当年次	単位	学 科 目	配当年次	単位
シ ス テ ム 論	1～4	2	学 習 と メ デ ィ ア	1～4	2
シンボルシステム論	1～4	2	ジャーナリズム研究	1～4	2
言 語 ・ 記 号 論	1～4	2	政 治 学	1～4	2
造 形 心 理 学	1～4	2	経 済 学	1～4	2
コミュニケーション論	1～4	2	マルチメディアインターフェース	1～4	2
マ ス メ デ ィ ア 論	1～4	2	Media Production:Fundamentals	1～4	2

(T-V：人間形成と適応)

学 科 目	配当年次	単位	学 科 目	配当年次	単位
哲 学	1～4	2	発 達 心 理 学	1～4	2
倫 理 学	1～4	2	認 知 行 動 理 論	1～4	2
バイオエシックス	1～4	2	イメージ自己体験法	1～4	2
教 育 学	1～4	2	臨 床 心 理 学	1～4	2
教育制度論	1～4	2	行 動 療 法	1～4	2
教育環境論	1～4	2	性 の 生 物 学	1～4	2
教授学習過程論	1～4	2	性 の 心 理 学	1～4	2
ライフコース論	1～4	2	性 教 育	1～4	2
教 育 心 理 学	1～4	2			

(T-VI：社会と環境)

学 科 目	配当年次	単位	学 科 目	配当年次	単位
環 境 論	1～4	2	生 態 心 理 学	1～4	2
生態系科学	1～4	2	人 間 関 係 論	1～4	2
動物生態学	1～4	2	対 人 行 動 論	1～4	2
環 境 史	1～4	2	組 織 心 理 学	1～4	2
人 口 学	1～4	2	社 会 心 理 学	1～4	2
社会変動論	1～4	2	空 間 の 心 理 学	1～4	2
都市社会学	1～4	2	環 境 色 彩 論	1～4	2
社会集団論	1～4	2	環 境 生 理 学	1～4	2
公共政策論	1～4	2	環 境 情 報 科 学	1～4	2
社会調査論	1～4	2	循 環 シ ス テ ム 論	1～4	2
社会意識論	1～4	2			

(T-VII：生活と福祉)

学 科 目	配当年次	単位	学 科 目	配当年次	単位
社 会 福 祉 論	1～4	2	リハビリテーション	1～4	2
比 較 福 祉 論	1～4	2	法 学	1～4	2
生 涯 教 育 論	1～4	2	憲 法	1～4	2
家 族 社 会 学	1～4	2	産 業 ・ 職 業 社 会 学	1～4	2
高 齢 社 会 論	1～4	2	余 暇 論	1～4	2
老 年 心 理 学	1～4	2	セラピューティックレクリエーション論	1～4	2
看 護 学	1～4	2	観光レクリエーション論	1～4	2

(T-VIII：文化と歴史)

学 科 目	配当年次	単位	学 科 目	配当年次	単位
文 化 心 理 学	1～4	2	ア ジ ア 文 化 論	1～4	2
ジ ェ ン ダ ー 論	1～4	2	イ ス ラ ム 社 会 論	1～4	2
臨 床 と 文 化	1～4	2	ピ ラ ミ ッ ド 文 明 論	1～4	2
考 古 学	1～4	2	エ ジ プ ト 文 明 論	1～4	2
先 史 学	1～4	2	ヨ ー ロ ッ パ 文 化 論	1～4	2
日 本 民 俗 学	1～4	2	ス ポ ー ツ 史	1～4	2
宗 教 学	1～4	2	武 道 文 化 論	1～4	2
文 化 人 類 学	1～4	2	科 学 史	1～4	2
社 会 開 発 論	1～4	2	異 文 化 間 教 育 論	1～4	2
比 較 文 化 論	1～4	2			

(T-IX：身体と表現)

学 科 目	配当年次	単位	学 科 目	配当年次	単位
芸 術 論	1～4	2	映 像 論	1～4	2
文 学	1～4	2	舞 踊 論	1～4	2
音 楽	1～4	2	武 道 論	1～4	2
美 術 史	1～4	2	遊 戯 論	1～4	2
表 現 史	1～4	2	I T 産 品 デ ザ イ ン 論	1～4	2
演 劇	1～4	2			

(T-X:スポーツと現代社会)

学 科 目	配当年次	単位	学 科 目	配当年次	単位
生涯スポーツ論	1～4	2	スポーツ産業論	1～4	2
コミュニティスポーツ論	1～4	2	スポーツマーケティング論	1～4	2
スポーツ教育論	1～4	2	社会調査法	1～4	2
スポーツ行政論	1～4	2	民族スポーツ調査法	1～4	2
スポーツ情報論	1～4	2			

(T-X I:体力とスポーツ技術)

学 科 目	配当年次	単位	学 科 目	配当年次	単位
人体の構造	1～4	2	運動学	1～4	2
身体形態学(解剖学を含む)	1～4	2	運動制御論	1～4	2
スポーツ栄養学	1～4	2	運動処方論	1～4	2
メンタルトレーニング論	1～4	2	スポーツ実習Ⅰ	1～4	2
スポーツ工学	1～4	2	スポーツ実習Ⅱ	1～4	2

(T-X II:保健と医療)

学 科 目	配当年次	単位	学 科 目	配当年次	単位
基礎栄養学	1～4	2	精神医学	1～4	2
衛生学	1～4	2	画像医学	1～4	2
公衆衛生学	1～4	2	救急医学	1～4	2
学校保健	1～4	2	救急処置法	1～4	2
精神保健概論	1～4	2	臨床スポーツ医学	1～4	2
心身医学	1～4	2	保健社会学	1～4	2
医学心理学	1～4	2	医療人類学	1～4	2

4. 人間科学プログラム

人間科学プログラムは3学科の教員が設置する演習群から構成される。これらの演習群は、学科に係わらず3年生以上の学生全員が履修できる。人間科学プログラムに関する詳細は、11月頃に配付される「人間科学プログラム履修要項」を参照のこと。

演 習	配当年次	単位
認知心理学	3	4
動機づけ（発達と社会）	3	4
行動発達研究	3	4
脳の科学	3	4
高齢社会論	3	4
身体運動医科学	3	4
【教育システム論】		
メディアコミュニケーション	3	4
教育情報科学	3	4
【文化と表象－社会解読の手法－】		
民俗の言説－文化的アイデンティティと社会的表現－	3	4
比較社会論	3	4
日本文化研究の視点と方法	3	4
海外と日本人－北南米を中心に	3	4
文化人類学の理論と方法	3	4

5. 自由科目

外国語上級クラス

外国語上級クラスに関しては、本書の15ページを参照すること。

V. 科目履修要領

1. 各学科別科目履修方法

各学科ごとに、科目履修のガイダンスを行うので、必ず受講すること。

1) 人間基礎科学科

(1) 卒業に必要な単位数 124単位

(2) 卒業必要単位数表

学 科 名	学 部 指 定 科 目						学科指定科目		人 間 科 学 テ ー マ 科 目	人 間 科 学 プ ロ グ ラ ム	総 取 得 単 位 数
	総 合 講 座		コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン			卒 業 研 究	必 修 科 目	選 択 科 目			
	人 間 科 学 Ⅰ	人 間 科 学 Ⅱ	第 一 外 国 語	第 二 外 国 語	情 報 処 理						
人間基礎科学科	4	4	6	8	2 ～ 8	8	24	9 以上	40 以上	(4)	124

(注)

- 人間科学プログラムの単位は、学科指定必修科目の「演習」の単位と同等に扱われる。
- 各系列の卒業必要単位数をすべて満たした上で（それだけでは124単位に満たない）、卒業必要単位へ算入できる単位の合計が124単位以上となるように履修すること。

(3) 登録制限単位

各年度の登録単位数は、40単位以内でなければならない。

(4) 単位履修基準表

本学部における卒業に必要な必要単位数の履修基準は、次の表のとおりである。この基準は学習能力を比較的均等に活用できるよう、一定の配慮に基づいて決められている。

ただし、「総合講座」、「情報処理」、「学科指定科目」中の選択科目、「人間科学テーマ科目」は、各年度の登録制限単位以内であれば、基準より多く履修しても差し支えない。

科目			年次	1 年	2 年	3 年	4 年	計 単位
学部指定科目	総合講座	人間科学Ⅰ	2 (1)	2 (1)				4 (2)
		人間科学Ⅱ			2 (1)	2 (1)		4 (2)
	コミュニケーション	第一外国語	4 (4)	2 (2)				6 (6)
		第二外国語	4 (2)	4 (2)				8 (4)
		情報処理	2 (1)					2 (1)
	卒業研究					8 (1)		8 (1)
学科指定科目	必修科目		16(4)	4 (1)	4 (1)			24(6)
	選択科目			6 (2)	3 (1)			9 (3)
上記以外の科目(人間科学テーマ科目等)			6 (3)	18(9)	26(13)	10(5)		60(30)
合計 (履修基準)			34(15)	36(17)	35(16)	20(7)		125(55)*
登録制限単位			40	40	40	40		

() 内は科目数を示す。

* 基礎科学科の場合、学科指定科目中の選択科目（実習・各3単位）を最低3科目履修することが必要であり、したがって卒業に必要な最低の単位数は実際には125となる場合がある。

(5) 科目ごとの履修に関する注意

①学科指定必修科目

2年次までに「人間基礎科学実習」を取得できなかった者は、3年次以降に「人間基礎科学実習」と「演習」を同時に履修することができる。

②学科指定選択科目

- ア) 生物学系，心理行動学系，社会学系のうち2つ以上の学系から合わせて3科目以上履修しなければならない。
- イ) これらの科目の履修にあたっては，それに関連した人間科学テーマ科目をできるだけ履修することが望ましい。

③人間科学テーマ科目

5つ以上の異なったテーマから計20科目（40単位）以上を必修とする。

④人間科学プログラム

人間科学プログラムに設置されている演習を履修した場合，その単位は学科指定必修科目の「演習」と同等に扱う。

⑤卒業研究

「卒業研究」を登録する場合には下記の条件を全て満たしていなければならない。

- ア) 4年生以上であること。
- イ) 卒業必要単位を84単位以上取得していること。
- ウ) 原則として「人間基礎科学実習」と「演習」（または人間科学プログラムの演習）の両方を履修済みであること。
- エ) 原則として学科指定選択科目を1科目は履修済みであること。

⑥自由科目

登録制限単位外で自由に履修することができる。卒業必要単位には算入しない。

2) 人間健康科学科

(1) 卒業に必要な単位数 124単位

(2) 卒業必要単位数表

学 科 名	学 部 指 定 科 目						学科指定科目		人 間 科 学 テ ー マ 科 目	人 間 科 学 プ ロ グ ラ ム	総 取 得 単 位 数
	総 合 講 座		コミュニケーション			卒 業 研 究	必 修 科 目	選 択 科 目			
	人 間 科 学 Ⅰ	人 間 科 学 Ⅱ	第 一 外 国 語	第 二 外 国 語	情 報 処 理						
人間健康科学科	4	4	6	8	2 ～ 8	8	20	14 以上	40 以上	(4)	124

(注)

1. 人間科学プログラムの単位は、学科指定必修科目の「演習」の単位と同等に扱われる。
2. 各系列の卒業必要単位数をすべて満たした上で（それだけでは124単位に満たない）、卒業必要単位へ算入できる単位の合計が124単位以上となるように履修すること。

(3) 登録制限単位

各年度の登録単位数は、40単位以内でなければならない。

(4) 単位履修基準表

本学部における卒業に必要な必要単位数の履修基準は、次の表のとおりである。この基準は学習能力を比較的均等に活用できるよう、一定の配慮に基づいて決められている。

ただし、「総合講座」，「情報処理」，「学科指定科目」中の選択科目，「人間科学テーマ科目」は、各年度の登録制限単位以内であれば、基準より多く履修しても差し支えない。

科目			年次	1 年	2 年	3 年	4 年	計 単位
学部指定科目	総合講座	人間科学Ⅰ	2 (1)	2 (1)				4 (2)
		人間科学Ⅱ			2 (1)	2 (1)		4 (2)
	コミュニケーション	第一外国語	4 (4)	2 (2)				6 (6)
		第二外国語	4 (2)	4 (2)				8 (4)
		情報処理	2 (1)					2 (1)
	卒業研究					8 (1)		8 (1)
学科指定科目	必修科目		8 (3)	8 (4)	4 (1)			20(8)
	選択科目	実験調査研究法	4 (2)	2 (1)				6 (3)
		講義科目		2 (1)	4 (2)	2 (1)		8 (4)
人間科学テーマ科目			16(8)	16(8)	20(10)	6 (3)		58(29)
合計（履修基準）			40(21)	36(19)	30(14)	18(6)		124(60)
登録制限単位			40	40	40	40		

() 内は科目数を示す。

(5) 科目ごとの履修に関する注意

①学科指定必修科目

「演習」を履修するためには、実験調査研究法を4単位履修済みでなければならない。したがって、2年次までに実験調査研究法を4単位履修できていない場合、3年次以降に不足分を履修し、4年次以降に「演習」を履修することになる。

②学科指定選択科目

選択科目のうち、実験調査研究法から3科目（6単位）を、講義科目Aから4科目（8単位）以上を、それぞれ選択しなければならない。

③人間科学テーマ科目

卒業までに、5つ以上の異なったテーマから計20科目（40単位）以上を必修とする。

④人間科学プログラム

人間科学プログラムに設置されている演習を履修した場合、その単位は学科必修科目の「演習」と同等に扱う。

⑤卒業研究

「卒業研究」を登録する場合には下記の条件を全て満たしていなければならない。

- ア) 4年生以上であること。
- イ) 卒業必要単位を84単位以上取得していること。
- ウ) 実験調査研究法を4単位以上取得していること。
- エ) 原則として「演習」または人間科学プログラムの演習を取得していること。

⑥自由科目

登録制限単位外で自由に履修することができる。卒業必要単位には算入しない。

3) スポーツ科学科

(1) 卒業に必要な単位数 124単位

(2) 卒業必要単位数表

学 科 名	学 部 指 定 科 目						学科指定科目		人 間 科 学 テ ー マ 科 目	人 間 科 学 プ ロ グ ラ ム	総 取 得 単 位 数
	総 合 講 座		コミュニケーション			卒 業 研 究	必 修 科 目	選 択 科 目			
	人 間 科 学 Ⅰ	人 間 科 学 Ⅱ	第 一 外 国 語	第 二 外 国 語	情 報 処 理						
スポーツ科学科	4	4	6	8	2 ～ 8	8	12	40 以上	40 以上	一	124

(注) 各系列の卒業必要単位数をすべて満たした上で、卒業必要単位へ算入できる単位の合計が124単位以上となるように履修すること。スポーツ科学科の場合、学科指定選択科目の卒業必要単位数40単位以上には、人間科学テーマ科目の一部も含まれるので、総取得単位数を計算する際、二重にカウントしないよう注意が必要。

(3) 登録制限単位

各年度の登録単位数は、40単位以内でなければならない。

(4) 単位履修基準表

本学部における卒業に必要な必要単位数の履修基準は、次の表のとおりである。この基準は学習能力を比較的均等に活用できるよう、一定の配慮に基づいて決められている。

ただし、「総合講座」、「情報処理」、「学科指定科目」中の選択科目、「人間科学テーマ科目」、「人間科学プログラム」は、各年度の登録制限単位以内であれば、基準より多く履修しても差し支えない。

科目			年次	1 年	2 年	3 年	4 年	計 単位
学部指定科目	総合講座	人間科学Ⅰ	2 (1)	2 (1)				4 (2)
		人間科学Ⅱ			2 (1)	2 (1)		4 (2)
	コミュニケーション	第一外国語	4 (4)	2 (2)				6 (6)
		第二外国語	4 (2)	4 (2)				8 (4)
		情報処理	2 (1)					2 (1)
	卒業研究					8 (1)	8 (1)	
学科指定科目	必修科目		4 (2)	4 (4)	2 (1)	2 (1)	12(8)	
	選択科目	A群・B群・C群 各科目選択	6 (3)	4 (2)	2 (1)		12(6)	
		A・B・C群のうち から上記で選択 した以外の科目、D群、人間 科学7科目X～ XII群	8 (4)	8 (4)	10(5)	2 (1)	28(14)	
人間科学 テーマ科目	必修科目 (T-XⅠ：スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ)		2 (1)	2 (1)			4 (2)	
	選択科目		8(4)	8(4)	16(8)	4(2)	36(18)	
合計（履修基準）			40(22)	34(20)	32(16)	18(6)	124(64)	
登録制限単位			40	40	40	40		

() 内は科目数を示す。

(5) 科目ごとの履修に関する注意

①学科指定必修科目

2年次までに「演習Ⅰ」4単位を取得できなかった者は、3年次以降に「演習Ⅰ」と「演習ⅡA」を同時に履修することができる。また、4年次以降に「演習ⅡA」と「演習ⅡB」を同時に履修することができる。

「演習ⅡB」を履修するためには、「演習Ⅰ」4単位を取得済みでなければならない。

「演習ⅡA・B」のクラスは、原則として各自が履修した「演習Ⅰ」の担当教員のクラスから選択することが望ましい。

②学科指定選択科目

ア) 卒業までに、学科指定選択科目(A・B・C・D群)、人間科学テーマ科目X～XⅡ群から合計40単位を必ず履修すること。

イ) A群・B群・C群の3つの科目群から、それぞれ4単位以上を必ず履修すること。
A群については、「スポーツ方法実習Ⅰ」あるいは「スポーツ方法実習Ⅱ」の中から2単位以上を履修しなければならない。

ウ) 「スポーツ方法実習Ⅰ」「スポーツ方法実習Ⅱ」および「スポーツ指導法実習」は16単位まで卒業必要単位に算入できる。これを超えた単位数は卒業必要単位には算入できないが、登録制限単位には含まれる。

③人間科学テーマ科目

卒業までに、5つ以上の異なったテーマから計20科目(40単位)以上を必修とする。

④人間科学プログラム

卒業必要単位に算入される。

⑤卒業研究

「卒業研究」を登録する場合には下記の条件を全て満たしていなければならない。

ア) 4年生以上であること。

イ) 卒業必要単位を84単位以上取得していること。

ウ) 「演習Ⅰ」を4単位取得していること。

⑥自由科目

登録制限単位外で自由に履修することができる。卒業必要単位には算入しない。

2. 本学部内他学科設置科目

2年度生以上から年間登録制限単位数内で、他学科の学科指定科目を履修することができる。ただし、各学科とも履修を認める範囲が異なるので、下表を参照すること。

人間基礎科学科・人間健康科学科では、履修した科目は4単位までを卒業必要単位に算入できる。スポーツ科学科では、履修した科目を4単位まで学科指定選択科目として卒業必要単位に算入できる。これを超えた単位は卒業必要単位には算入できないが、登録制限単位には含まれる。

人間基礎科学科	選択科目についてのみ他学科生の履修を認める。ただし、その可否は担当教員が決定するので各自登録前に承認を得ておくこと。
人間健康科学科	実験調査研究法以外の科目のうち、いくつかの科目について他学科生の履修を認める。詳細は「科目登録の手引き」を参照のこと。
スポーツ科学科	学科指定選択科目のうち、A群・B群・C群の科目に限り、他学科生の履修を認める。

※履修可能科目になっていても、自学科学生で定員に達した場合は募集を行わない。

3. 他箇所設置科目

他箇所に設置されている科目の単位は、原則として他学部聴講単位として卒業必要単位に算入する。算入単位数には上限を設けない。

他学部聴講単位は学部、学科で指定する系列（学部指定科目、学科指定科目、人間科学テーマ科目等）には属さない単位であるため、これらの系列の必要単位を充当する科目とはならないから注意すること。

各系列の必要最低単位を合計しても卒業に必要な124単位には満たないので、他学部聴講単位はこの不足分を補う単位として利用することができる。この点は所属学科および各個人の履修状況によって異なるので、他箇所科目を履修する場合は各自の状況をよく把握しておくこと。

なお、科目設置箇所ごとの注意事項は次のとおり。

1) 他学部

次の科目は卒業必要単位には算入できない。

- ・科目設置学部で卒業算入単位として扱われていない科目（自由科目等）
- ・教職科目など、資格に関する科目

2) オープン教育センター

「オープン科目」は、各学部・箇所の提供科目（オープン教育センター提供科目を含む）で構成されている。

この中には、学際的なテーマを持ち、そのテーマに関連のある演習や講義を学ぶ「テーマカレッジ」も置かれている。テーマカレッジの演習では、全学部の新入生を中心に徹底的な小人数教育を行い、テーマに関する知識だけではなく大学における学習・研究方法の基礎を学ぶ。

これらオープン科目の詳細は、オープン教育センター発行のガイドブックまたはホームページ（<http://www.waseda.ac.jp/open/>）を参照すること。

3) 語学教育研究所，日本語研究教育センター，メディアネットワークセンター

これらの箇所の科目は、自由科目として登録制限単位外で履修することもできる。自由科目としての履修を希望する場合は、各箇所での科目登録後に、学部事務所で所定の手続を行うこと（手続を行わない場合は原則どおり卒業必要単位に算入される）。

なお、メディアネットワークセンター設置科目「情報処理入門Ⅰ」は、本学部設置の必修科目「情報処理Ⅰ」と授業内容が重複するので、履修を認めない。

履修にあたっては、各箇所が発行する要項類を参照すること。

4) 国際教育センター・国際部

国際教育センター・国際部の聴講生試験に合格し、秋学期および春学期の科目を履修した場合、本人が学部事務所に申し出ることにより、他学部聴講と同様の扱いとなる。

授業はすべて英語によって行われる。

5) 体育局についての例外規定

体育局で保健体育科目として開講している、スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ、スポーツ理論は、理念的には人間科学部設置科目として扱うので、この項目で説明している「他箇所設置科目」の取扱原則とは別に規則を定めている。

本学部では、保健体育科目は4科目8単位まで履修することができ、そのうち2科目4単位は卒業必要単位へ算入する。履修方法の詳細は、学部の「科目登録の手引き」および体育局の履修要項を参照すること。

4. 一般入学者以外の科目履修（外国学生，学士入学，転部）

1) 外国学生の「日本語」履修

- (1) 第二外国語として，日本語Ⅰおよび日本語Ⅱ（各4単位）を必修とする。
- (2) 日本語の登録は，日本語研究教育センターで行い，授業も原則として西早稲田キャンパスで行われる。

2) 学士入学者の履修

- (1) 本学部にて2年以上在学し，所定の単位を取得した場合，学士（人間科学）の学位が与えられる。
- (2) 学士入学者が，卒業に要する単位数は下表のとおりである。

	人間基礎科学科	人間健康科学科	スポーツ科学科
学部指定科目			
人間科学Ⅰ	(免除)	(免除)	(免除)
人間科学Ⅱ	4	4	4
第一外国語	(免除)	(免除)	(免除)
第二外国語	(免除)	(免除)	(免除)
情報処理Ⅰ	2	2	2
卒業研究	8	8	8
学科指定科目			
必修科目	24	8	12
選択科目	6	14	(26)
人間科学テーマ科目	18	20	(18)
計	62	62	62

- (3) 上表のうち，学科指定科目の卒業条件の詳細は以下のとおりとする。

人間基礎科学科

- 必修科目については，一般入学者と同様とする。
- 選択科目については，2学系以上にわたって6単位以上取得していること。

人間健康科学科

- 「統計学Ⅰ」「統計学Ⅱ」「演習」を必修とする。
- 選択科目については一般入学者と同様に、実験調査研究法を6単位・講義科目Aを8単位以上取得していること。
- 一般入学者の必修科目のうち学士入学者については必修としない科目（「基礎講義」等5科目）は、学科選択科目として卒業単位に算入するが、実験調査研究法にも講義科目Aにも含めない。

スポーツ科学科

- 必修科目については、一般入学者と同様とする。ただし、体育局設置のスポーツ実習の履修は免除する。
 - 選択科目については、A・B・C群からそれぞれ4単位ずつを含め、A～D群および人間科学テーマ科目X～XⅡ群から26単位以上取得していること。A群については、スポーツ方法実習Ⅰあるいはスポーツ方法実習Ⅱの中から2単位以上を履修すること。
 - スポーツ方法実習Ⅰ、スポーツ方法実習Ⅱ、スポーツ指導法実習およびスポーツ実習については、20単位を上限として卒業単位に算入する。
- (4) 人間科学テーマ科目については、5つ以上の異なったテーマから、前ページの表で定められた単位数を履修しなければならない。
- (5) 本学部設置の以下の科目については、本学部入学前の学部で取得した同様な内容の科目で振替えることが出来る。科目の振替えを行った場合、その単位数分その他の科目を履修しなければならない。
- 人間基礎科学科指定科目の「統計学」および選択科目
 - 人間健康科学科指定科目の「統計学Ⅰ」および「統計学Ⅱ」
- (6) 学士入学者の在学年数は4年をこえることができない。
- (7) 詳細については科目登録時に指示する。

3) 転部（2年編入）者の履修

- (1) 本学部にて3年以上在学し、所定の単位を取得した場合、学士（人間科学）の学位が与えられる。
- (2) 転部（2年編入）者は、編入する学年の正規の学生が入学時において定められた卒業に必要な単位を履修しなければならない。また、登録制限単位についても同様の取り扱いとする。
- (3) 転部前の学部で取得した科目のうち、本学部設置科目に振替え可能なものは、30単位

を上限として振替える。

- (4) 転部（2年編入）者の在学年数は6年をこえることができない。
- (5) 詳細については科目登録時に指示する。

5. 転科者の科目履修

- 1) 学部指定科目、人間科学テーマ科目については、前所属学科で取得した単位をそのまま転科先学科に引き継ぐ。
- 2) 学科指定科目については、原則として転科先学科の学科指定科目への振替えは行わない。ただし、人間基礎科学科の「統計学」（通年4単位）と人間健康科学科の「統計学Ⅰ・Ⅱ」（それぞれ半期2単位）のみ相互に振替える。
- 3) 振替えを行わなかった学科指定科目の単位は、系列に属さない単なる卒業算入単位として扱う。

6. 休学および留学からの復学者の科目履修

- 1) 卒業に必要な単位数およびその内訳は、入学した年度の規定による。したがって、入学した年度の単位履修基準表により必要な科目および単位を履修すること。
- 2) 休学から復学した者の科目履修上の学年は、入学年度より計算した学年から休学期間を差し引いた学年とする。
- 3) 留学から復学した者の科目履修上の学年は、入学年度より計算した学年どおりとする。（単位認定により留学期間を含めて通算4年間で卒業する場合への配慮から）

7. 休学者の前期履修取得単位の取り扱い

年度の後期から休学したとき、その年度の前期に履修し単位を取得した学科目がある場合には、復学時に、その学科目の単位を復学した年度に取得したものとして認める。

この場合の単位数は、復学した年度の登録制限単位数の中に含めるものとする。

VI. 資格取得に関する履修要領

1. 教員免許状の取得

本学部では、以下の教員免許の取得が可能である。

- 人間健康科学科：高等学校教諭1種免許状（情報）
- スポーツ科学科：中学校教諭1種免許状（保健体育）
高等学校教諭1種免許状（保健体育）

教員免許状を希望するものは、『教育職員免許法第5条別表第1』の規定により、以下の単位を取得しなければならない。

	最低修得単位数		履 修 方 法
基礎資格	---		学士の学位を有すること。
日本国憲法	2		人間科学テーマ科目（T-VII：生活と福祉）の「憲法」で充当される。
体 育	2		体育局設置の「スポーツ実習Ⅰ」または「スポーツ実習Ⅱ」で充当される。
外国語コミュニケーション	2		第一外国語の「英語ⅠA」または「英語ⅠB」で充当される。
情報機器の操作	2		学部指定科目「情報処理Ⅰ」で充当される。
教職に関する専門教育科目	合計 59	中学1種 31 高校1種 25	「各種資格取得の手引き」参照
教科に関する専門教育科目		20	次ページ以降参照
教科または教職に関する科目			次ページ以降の表と「各種資格取得の手引き」参照

中学校教諭の免許取得のためには、以上の要件に加えて「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」が定める7日以上介護等の体験が必要である。介護等の体験に関する詳細は、「各種資格取得の手引き」を参照すること。

※ 免許状の申請には、卒業年次に大学が取りまとめ窓口となって申請する「一括申請」と、学生個人が居住地の都道府県教育委員会へ直接申請する「個人申請」の2種類がある。一括申請手続については掲示にて周知するが、個人申請を行う場合の申請方法等は各教育委員会へ問い合わせること。

教科に関する専門教育科目履修方法（情報：人間健康科学科）

免許法施行規則に定める科目	左記に該当する設置科目 (○印は必修科目)	単位	履修方法
情報社会及び情報倫理	○情報社会及び情報倫理 総合講座・人間科学Ⅱ〔メディア〕 学習とメディア 英文情報処理（MNC設置）	2 2 2 2	必修を含め2単位以上履修
コンピュータ及び情報処理 （実習を含む）	○コンピュータ及び情報処理 情報処理Ⅰ 情報処理Ⅱ コンピュータによる統計処理 情報処理入門（MNC設置） プログラミング初歩（MNC設置） コンピュータによる統計処理（MNC設置） プログラミング中級（MNC設置） コンピュータによる金融工学入門Ⅰ（MNC設置） コンピュータによる金融工学入門Ⅱ（MNC設置）	2 2 2 2 2 2 4 2 2 2	必修を含め2単位以上履修
情報システム（実習を含む）	○情報システム論及び実習 Unix入門	2 2	必修を含め2単位以上履修
情報通信ネットワーク （実習を含む）	情報通信ネットワーク論及び実習 ネットワーク技術Ⅰ（MNC設置） ネットワーク技術Ⅱ（MNC設置） ネットワーク技術Ⅲ（MNC設置） ネットワーク技術Ⅳ（MNC設置）	2 2 2 2 2	「情報通信ネットワーク論 及び実習」を含め2単位以上 履修するか、または「ネット ワーク技術Ⅰ、Ⅱ」を含め4 単位以上履修
マルチメディア表現及び技術 （実習を含む）	○マルチメディア表現及び技術 バーチャルリアリティー マルチメディアインターフェース マルチメディア入門（MNC設置） マルチメディア原論A（MNC設置） マルチメディア原論B（MNC設置） マルチメディア原論C（MNC設置） マルチメディア原論D（MNC設置） マルチメディア原論E（MNC設置）	2 2 2 4 4 4 4 4	必修を含め2単位以上履修
情報と職業	情報と職業 情報化社会概論（MNC設置）	2 2	2単位以上履修
教科または教職に関する科目	学校カウンセリング 教育デザイン論 教育学 教育制度論 教育環境論 教育心理学 発達心理学	2 2 2 2 2 2 2	教科に関する科目および教 職に関する科目との合計単 位数が59単位以上となるよ うに選択履修 （このほか教職課程設置科目に も該当科目があるので、「各種資 格取得の手引き」参照のこと）
法令上必要な最低単位 <20>		20	

教科に関する専門教育科目履修方法（保健体育：スポーツ科学科）

免許法施行規則に定める科目	左記に該当する設置科目	単位	履修方法	
体育実技	(a)体操・器械運動		以下の条件を満たすよう履修すること。 【必要最低条件】 (a)～(e)の各領域は、それぞれ同種目のスポーツ方法実習Ⅰ・Ⅱを1単位ずつ（合計2単位）履修する。＜(a)～(e)総計10単位＞ (f)については2単位履修する。 各領域とも上記の条件を超えて単位を履修してもよい。	
	スポーツ方法実習Ⅰ(フィットネス)	1		
	スポーツ方法実習Ⅱ(フィットネス)	1		
	スポーツ方法実習Ⅰ(器械運動)	1		
	スポーツ方法実習Ⅱ(器械運動)	1		
	(b)陸上競技			
	スポーツ方法実習Ⅰ(陸上)	1		
	スポーツ方法実習Ⅱ(陸上)	1		
	(c)水泳			
	スポーツ方法実習Ⅰ(水泳)	1		
	スポーツ方法実習Ⅱ(水泳)	1		
	(d)球技			
	スポーツ方法実習Ⅰ(バレーボール)	1		
	スポーツ方法実習Ⅱ(バレーボール)	1		
	スポーツ方法実習Ⅰ(バスケットボール)	1		
	スポーツ方法実習Ⅱ(バスケットボール)	1		
	スポーツ方法実習Ⅰ(サッカー)	1		
	スポーツ方法実習Ⅱ(サッカー)	1		
	(e)武道・ダンス			
	スポーツ方法実習Ⅰ(柔道)	1		
	スポーツ方法実習Ⅱ(柔道)	1		
	スポーツ方法実習Ⅰ(剣道)	1		
	スポーツ方法実習Ⅱ(剣道)	1		
	スポーツ方法実習Ⅰ(ダンス)	1		
	スポーツ方法実習Ⅱ(ダンス)	1		
	(f)その他			
	スポーツ指導法実習	2		
*上記スポーツ方法実習Ⅰ・Ⅱを履修した種目から選択				
「体育原理，体育心理学，体育経営管理学，体育社会学」及び運動学（運動方法学を含む）	スポーツ心理学	2	2単位以上履修	4単位以上履修
	スポーツ経営学	2		
	スポーツ社会学	2	2単位以上履修	
	運動学	2		
	バイオメカニクス	2		
生理学（運動生理学を含む）	生理学	2	4単位履修	
	スポーツ生理学	2		
衛生学及び公衆衛生学	衛生学	2	4単位履修	
	公衆衛生学	2		
学校保健（小児保健，精神保健，学校安全及び救急処置を含む）	学校保健	2	6単位履修	
	精神保健概論	2		
	救急処置法	2		
教科または教職に関する科目	測定評価演習	2	測定評価演習を必修(※)とし，教科に関する科目および教職に関する科目との合計単位数が59単位以上となるように選択履修。 (このほか教職課程設置科目にも該当科目があるので，「各種資格取得の手引き」参照のこと)	
	スポーツ科学概論	2		
	スポーツ方法実習Ⅰ	2		
	*「体育実技」に該当しない科目	2		
	スポーツ方法実習Ⅱ	2		
	*「体育実技」に該当しない科目	2		
	体力トレーニング論	2		
	コーチング論	2		
	測定評価論	2	※個人申請する場合は，測定評価演習を必修としない。	
	スポーツ技術論 *全科目	2		
	スポーツ教育論	2		
		2		
法令上必要な最低単位 <20>	当学部での必須単位合計	32		

2. その他の資格

1) 社会福祉主事となる資格を取得するには

社会福祉主事とは、社会福祉事業法など（他は省略）の施行に関する都道府県知事又は市町村長の事務の執行を補助するものである。（社会福祉事業法第17条第3項）

社会福祉主事となる資格を得るには、本学部設置された科目（表1）のうちから、履修可能な科目を3科目以上履修すればよい。

なお、法令にもあるとおり、社会福祉主事とは、公務員として役所に勤務して初めてなることのできる資格であることに注意すること。

（表1）社会福祉主事

厚生省告示による 指定科目	本学部設置該当科目	配 当 種 別	備 考
倫 理 学	倫 理 学	T-V人間形成と適応	3科目以上 選択履修
経 済 学	経 済 学	T-IV記号と情報	
法 律 学	法 学	T-VII生活と福祉	
教 育 学	教 育 学	T-V人間形成と適応	
心 理 学	発 達 心 理 学	T-V人間形成と適応	
社 会 学	高 齢 社 会 学	T-VII生活と福祉	
公 衆 衛 生 学	公 衆 衛 生 学	T-XⅡ保健と医療	
精 神 衛 生 学	精 神 保 健 概 論	T-XⅡ保健と医療	
栄 養 学	基 礎 栄 養 学	T-XⅡ保健と医療	
社 会 福 祉 概 論	社 会 福 祉 論	T-VII生活と福祉	
看 護 学	看 護 学	T-VII生活と福祉	

2) 社会教育主事となる資格を取得するには

社会教育主事は、社会教育を行う者に専門的技術的な助言と指導を与えるものである。

(社会教育法第9条の3)

この資格を得るには、同法に規定されている以下の要件を満たす必要がある。法令中の「社会教育に関する科目」は、次ページの表2のとおりであり、他学部に設置されている科目を履修することになる。

「大学に2年以上在学して、62単位以上を修得し、且つ、大学において文部省令で定める社会教育に関する科目の単位を修得したもので、1年以上社会教育主事補の職にあったもの。」

(表2) 社会教育主事

社会教育法指定科目	単位	左に対応する設置科目	単位	設置箇所	配当年次
生涯学習概論	4	生涯学習概論	4	教育	2～4年
		生涯学習概論	4	二文	
社会教育計画	4	社会教育行財政	4	教育	
社会教育演習, 社会教育実習, 社会教育課題研究のうち1科目以上	4	社会教育課題研究Ⅰ 社会教育課題研究Ⅱ	4 4	教育 教育	
社会教育特講Ⅰ (現代社会と社会教育)	4	家庭教育論 女性教育論 青少年教育論 成人教育論 女性史 高齢者教育論 多文化教育論	2 2 2 2 2 2 2	教育 教育 教育 教育 教育 教育 教育	1～4年
社会教育特講Ⅱ (社会教育活動・事業・施設)	4	図書館学Ⅰ 人事管理論 学校開放論 社会教育施設・職員論 博物館概論 博物館学各論 視聴覚教育及実習Ⅱ	4 4 2 2 2 4 2	教育(資格) 教育 教育 教育 教育(資格) 教育(資格) 教育	
社会教育特講Ⅲ (その他必要な科目)	4	教育原理 体育及びリクリエーション指導 送り手からのマスコミ論 マス・コミュニケーション論 教育学概論 地域福祉論	4 4 4 4 4 4	教育(資格) 教育 二文 二文 二文 二文	1～4年

(注) (表2)の科目のうち、設置箇所が教育(資格)である場合は、自由科目として扱うので、登録制限単位に含まれず、卒業必要単位にも算入されない。それ以外の科目は他学部設置科目として扱うので、登録制限単位に含まれ、卒業必要単位にも算入される。

3) 図書館司書・学校図書館司書教諭および博物館学芸員となる資格を取得するには

- ① 図書館法にもとづく図書館に置かれる専門職員を司書という。(図書館法第4条)
学校図書館法にもとづく学校図書館の専門的職務に従事する職員を司書教諭という。
(学校図書館法第5条)

- ② 博物館には、専門的職員として学芸員が置かれる。学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示および調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどるものである。(博物館法第4条第3・4項)

司書、司書教諭および博物館学芸員となる資格を得るには、他学部設置されている科目(表3・4・5)を履修することになる。ただし、司書教諭となる資格を得るには教員免許状をあわせて取得することが必要である。(司書教諭は、スポーツ科学科のみ取得可)

なお、詳細は、これら科目設置箇所での書類交付(日時等については、「早稲田ウィークリー」、本学部掲示板等に掲載する)を受けて、その指示に従うこと。

- (注) 上記の各種資格証明書を得るには、それぞれ所定の履修方法に従って単位を取得するとともに、資格取得希望者が定められた方法により、証明書等の申請手続きをしなければならない。

(表3) 司書資格

群	文 部 省 講 習 科 目	単位	教育学部設置該当科目	単位	配当 年次	配当 種別	備考
甲 群	図 書 館 概 論	2	図 書 館 学 I	4	1～ 4年	司 書 関 連 科 目	全 科 目 必 修
	図 書 館 サービス論	2					
	情 報 サービス 概説	2	レファレンスサービス概説及演習	4			
	レファレンスサービス演習	1					
	図 書 館 資 料 論	2	図 書 館 資 料 論	4			
	情 報 検 索 演 習	1	情 報 検 索 演 習	2			
	生 涯 学 習 概 論	1	生 涯 学 習	2			
	児 童 サービス論	1	生 涯 学 習 概 論	4			
	資 料 組 織 概 説	2	資 料 組 織 概 説 及 演 習	6			
	資 料 組 織 演 習	2					
	図 書 館 経 営 論	1	図 書 館 学 II	4			
	図 書 館 特 論	1					
	専 門 資 料 論	1	図 書 館 学 V	4			
	資 料 特 論	1					
乙 群	コミュニケーション論	1	< 該 当 科 目 な し >			2 科 目 以 上	
	情 報 機 器 論	1	< 該 当 科 目 な し >				
	図書及び図書館史	1	< 該 当 科 目 な し >				
	資 料 特 論	1	図 書 館 学 V に 含 む		－		
	図 書 館 特 論	1	図 書 館 学 II に 含 む		－		
計		20			30		

(注) (表3)の科目の単位は自由科目として扱うので、登録制限単位に含まれず、卒業必要単位にも算入されない。ただし、「生涯学習概論」だけは他学部設置科目として扱うので、登録制限単位に含まれ、卒業必要単位にも算入される。

(表4) 司書教諭資格

講 習 相 当 科 目	単 位	左に対応する設置科目	設置箇所	単 位	配当 年次	備考
学校経営と学校図書館	2	学校経営と学校図書館	教育(資格)	2	1～ 4年	必修
学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	教育(資格)	2		
学校図書館メディアの構成	2	図 書 館 資 料 論	教育(資格)	4		
		資料組織概説及演習	教育(資格)	6		
情報メディアの活用	2	情報メディアの活用	教育(資格)	2		
読書活動と豊かな人間性	2	読書活動と豊かな人間性	教育(資格)	2		
計	10	計		18		

(注) (表4)の科目のうち、設置箇所が教育(資格)である場合は、自由科目として扱うので、登録制限単位に含まれず、卒業必要単位にも算入されない。それ以外の科目は他学部設置科目として扱うので、登録制限単位に含まれ、卒業必要単位にも算入される。

(表5) 博物館学芸員資格

文部省で定める 博物館に関する科目	単 位	左に対応する設置科目	設置箇所	単 位	配当 年次
博 物 館 概 論	2	博 物 館 概 論	教育(資格)	2	1～ 4年
博 物 館 経 営 論	1	博 物 館 学 各 論	教育(資格)	4	
博 物 館 資 料 論	2				
博 物 館 情 報 論	1				
教 育 学 概 論	1	教 育 原 理	教育(資格)	4	
		教 育 学 概 論	二 文	4	
生 涯 学 習 概 論	1	生 涯 学 習	教育(資格)	2	
		生 涯 学 習 概 論	教 育	4	
視聴覚教育メディア論	1	視聴覚教育メディア論 (実習を含む)Ⅱ	教 育	2	2～ 4年
博 物 館 実 習	3	博 物 館 実 習	教育(資格)	3	

(注) (表5)の科目のうち、設置箇所が教育(資格)である場合は、自由科目として扱うので、登録制限単位に含まれず、卒業必要単位にも算入されない。それ以外の科目は他学部設置科目として扱うので、登録制限単位に含まれ、卒業必要単位にも算入される。

VII. 授業，各種試験，成績

1. 掲示

大学・学部から学生に対する伝達事項は，すべて掲示によることになっているから，登校の際必ず掲示板を確認すること。

掲示を見落とすと，思いがけない重大な結果を招くことがあるから十分注意されたい。

掲示板は，教務に関する一切のこと，奨学金関係，大学および学部からの伝達，その他事務所からの連絡などに使用する。

具体的には，

- ① 学部日程
- ② 科目登録関係
- ③ 他学部の科目登録日程
- ④ 授業時間割
- ⑤ 教室変更
- ⑥ 休講
- ⑦ 補講
- ⑧ 教場試験
- ⑨ レポート
- ⑩ 定期試験時間割
- ⑪ 学生呼出
- ⑫ 奨学金関係
- ⑬ 教職課程関係
- ⑭ 学生健保関係
- ⑮ 学内催事

などが掲示されるので，注意して見ること。

なお，本学部の掲示板は，Aゾーン（教室棟）に設置されている。

2. 交通機関のストライキと授業

首都圏のJR等がストライキを実施した場合、所沢キャンパスの授業休講措置については下の1), 2), 3), 5) が適用され、その他のキャンパスの授業休講措置については下の1), 2), 3), 4) が適用される。

1) JR等交通機関のストライキが実施された場合（ゼネスト）首都圏におけるJRのストライキが

- A 午前0時まで中止された場合、平常どおり授業を行う。
- B 午前8時まで中止された場合、3時限目（13時）から授業を行う。
- C 午前8時まで中止の決定がない場合は、終日休講とする。

上記はJRの順法闘争および私鉄のストライキには適用しない。

2) 首都圏JRの部分（拠点）ストライキが実施された場合平常通り授業を行う。

3) 首都圏JRの全面時限ストライキが実施された場合

- A 午前8時までストライキが実施された場合、3時限目（13時）から授業を行う。
- B 正午までストライキが実施された場合、6時限目（17時55分）から授業を行う。
- C 正午を超えてストライキが実施された場合、終日休講とする。

4) 首都圏JRを除く私鉄および都市交通のみのストライキが実施された場合平常通り授業を行う。

5) ① 西武鉄道新宿線または西武鉄道池袋線のどちらか一方でもストライキが実施された場合

- ② ①の西武鉄道両線のストライキが実施されない場合でも、西武バスのストライキが実施された場合

次のとおりとする。

- A 午前8時までストライキが実施された場合、3時限目（13時）から授業を行う。
- B 午前8時を超えてストライキが実施された場合、終日休講とする。

3. 気象警報発表と授業

気象庁より大雨、洪水、暴風雪、大雪のいずれかの気象警報が発表された場合、次の基準により授業休講または試験延期の措置を取る。休講等の代替措置については個々のケースに応じて別途掲示する。

a) 所沢キャンパスで実施される授業等については以下のとおりとする。

- 各時限の授業開始3時間前から終了時間までの間に、東京地方・埼玉地方のいずれかの地域が警報下に置かれた時間帯があった場合、その時限の授業を休講とする。
- 各時限の試験開始3時間前から終了時間までの間に、東京地方・埼玉地方のいずれかの地域が警報下に置かれた時間帯があった場合、その時限の試験は延期等の措置をとる。

b) 所沢キャンパス以外で実施される授業等については以下のとおりとする。

- 各時限の授業開始3時間前から終了時間までの間に、東京23区が警報下に置かれた時間帯があった場合、その時限の授業を休講とする。
- 各時限の試験開始3時間前から終了時間までの間に、東京23区が警報下に置かれた時間帯があった場合、その時限の試験は延期等の措置をとる。

上記の措置は、授業または試験開始3時間前から終了までの時間帯の途中で警報が解除された場合でも変更しない。

気象情報の入手には、次の方法がある。

- 1) NTT電話サービス（電話番号 177）
- 2) テレビ・ラジオ等のマスメディア
- 3) 熊谷地方気象台テレホンサービス（電話番号 0485-26-8415）

4. 試験

本学部では、毎年、以下の区分により試験を行う。

1) 教場試験

教場試験は授業期間中に担当教員の責任において行われる。

2) 定期試験

定期試験には前期試験と学年末試験の2種類がある。

※ この外、必要に応じて授業時間中に試験を行うことがある。

3) レポート

レポートの提出にあたっては、指定された提出場所が事務所である場合は、必ず所定の表紙（事務所配付）をつけ、提出期日の事務所閉室時間までに提出すること。提出期日の事務所閉室後及び日曜・祝日は、一切受付けないので注意すること。

4) 未済試験

病気その他正当な理由で、定期試験を受験できなかったものに対し、未済試験を行う。ただし、教場試験科目については未済試験の対象としないので、担当教員の指示に従うこと。

未済試験を受験する者は、受験しなかった科目の試験終了後、指定された期日に、医師の診断書または欠席した事実を証明できる書類（受験の可否については学部が判断する）、および手数料収納証紙を添付し、所定の用紙を用いて試験欠席届兼未済試験受験願を提出すること。

5) 再試験

成績発表の結果、卒業までの不足単位数が8単位以内の場合、不合格科目のうち以下の条件に該当するものに関して再試験を受験することができる。なお、受験できる単位数は卒業までに必要な最低単位数とし、受験により卒業見込みとなることを前提とする。

ただし、演習および実習を伴う科目（情報処理科目を含む）、卒業研究は再試験の対象外とする。

再試験の受験手続については掲示にて指示する。

5. 試験における不正行為

本学部における定期試験、教場試験および他学部聴講科目の試験等における不正行為については、内規によって以下のように定められている。

1) 不正行為の種類

- (1) 他人の身代りとなって受験したり，他人を自己の身代りとして受験させること。
- (2) 他人と答案用紙を交換すること。
- (3) 不正使用を目的として作成した文書等を試験場で使用すること。
- (4) 他人の答案を筆写したり，筆写させること。
- (5) 机等に施した不正の書き込みを参照すること。
- (6) 他人との間で資料の貸与または借用を行うこと。
- (7) 私語・動作等によって不正な連絡を行うこと。
- (8) 携帯電話・PHS・ポケットベルなどの情報端末を身の回りに置くこと。
- (9) 教科書・参考書・辞書・ノートを参照すること。（持込可の場合を除く）
- (10) 電卓，電子手帳，計算・辞書機能など時刻表示以外の機能の付いた時計を身の回りに置くこと。（持込可の場合を除く）
- (11) その他上記に類する行為〔(1)(2)(3)の未遂を含む〕。

2) 処分の種類

停学（無期停学または6カ月以下の有期停学），譴責および戒告

3) 成績評価

- (1) 無期停学の場合は，その年度に登録した科目のすべてをFとする。
- (2) 有期停学の場合は，その試験期間中に試験が行われた科目のすべてをFとする。
- (3) 譴責の場合は，その試験期間中に試験が行われた科目のうち当該試験科目以後に行われた科目のすべてをFとする。
- (4) 戒告の場合は，不正行為を働いた科目をFとする。
- (5) 試験における不正行為によって評価がFとなった科目については，再試験受験を認めない。

6. 成績

1) 成績の判定

成績は試験および出席状況等により総合的に判定する。

出席不良の者（個々の科目につき出席が総授業時間数の2/3に満たない者）は、試験の成績の如何にかかわらず原則として不合格とする。

2) 成績の表示および発表

成績は、A・B・C・D・Fをもって表示し、A～Dを合格、Fを不合格とする。

成績は上記のA～Fを成績通知書に記入し、指定の期日に発表する。A～F表示方法、優～不可表示方法と点数との関係は下表のとおりである。

点数	100～90	89～80	79～70	69～60	59以下（不合格）
成績証明書	優		良	可	証明書には記載しない
成績通知書	A	B	C	D	F
再試験受験資格					有

※他箇所科目の成績は、特に不合格評価の表示方法の点で異なることがある。

他箇所科目を履修する際に、科目設置箇所の要項等で確認すること。

3) S A (Scholarship Average)

本学部では、3年卒業制度や大学院推薦資格判定の際に、成績を数値化した総合成績点（S A）を使用する。S Aの算出方法は次のとおり。

成績	換算値	算 出 方 法
A	3	卒業必要単位へ算入される科目について、左記の換算値により1科目あたりの平均値を算出する。
B	2	
C	1	
D	0	
Fなどの 不合格評価	－1	$S A = \frac{\text{換算値の合計}}{\text{科目数}}$

※小数点以下第3位は四捨五入する

S Aは成績通知書に記載するが、学部内でのみ使用する数値であるため、各種証明書等に記載し学部として証明することはしない。海外で利用されているG P Aとは異なるものであるので、注意されたい。

4) 成績通知

成績は成績通知書によって本人に知らせる。既に取得した単位を成績通知書によって確認した上で、次年度の履修科目を決めること。なお、成績通知書は各自保管しておくこと。

7. 9月卒業

修業年限内に卒業できなかった者で、卒業までの不足単位数が16単位以内の場合、次の方法により次年度前期に不足単位を修得すれば、9月に卒業（9月15日付）することができる。その場合、卒業年度の2期分の学費は免除される。

- 1) 次年度に前期終了科目を履修し、所定の試験に合格すること。
- 2) 前年度に履修し不合格であった通年科目を次年度前期に引き続き履修し、所定の試験に合格すること。
- 3) 卒業研究の場合、前年度までに不合格となった者で、次年度前期に研究成果を提出し、合格すること。

なお、9月卒業を希望する者は、当該年度始めの指定された日に学部事務所まで申し出ること。詳細は掲示にて指示する。

VIII. 学費

学費（2002年度入学者）

納入期	学 費						諸会費			初年度合計
	入学金	初年度 授業料	施設費	実験 実習料	体育費	学生 読書 室図 書費	学会費		学生健 保組合 費 (4年分)	
							入会金	年会費		
入学時	290,000	472,750	117,500	L 35,000		250	2,000	1,000	12,000	L 930,500
				M 45,000						M 940,500
				N 35,000						N 3,000
第2期		472,750	117,500	L 35,000		250		1,000		L 626,500
				M 45,000						M 636,500
				N 35,000						N 626,500
計	290,000	945,500	235,000	L 70,000		500	2,000	2,000	12,000	L 1,557,000
				M 90,000						M 1,577,000
				N 70,000						N3,000

L…人間健康科学科，M…人間基礎科学科，N…スポーツ科学科

学 年	授業料	施設費
第2年度	959,600	235,000
第3年度	974,000	235,000
第4年度	988,600	235,000

※授業料と施設費は，第1期および第2期に半額ずつ徴収する。

- 1) 第2期の学費等口座振替は，10月1日。なお，2～4年度については，第1期の口座振替は5月1日となる。
- 2) 第2～4年度に徴収する学費等は，授業料，施設費，実験実習料，学生読書室図書費および学会費（年会費）です。また，第4年度に校友会費40,000円が必要。

- 3) 教員免許状を取得しようとする場合は、教職課程科目聴講料10,000円を別に徴収する。教育実習を選択する場合には教育実習料を別に徴収する。
- 4) 入学後、特定の科目を選択する場合は、別途実験実習料を徴収することがある。

○学費延納について

やむを得ない理由で納入期日までに納入できないときは、所定の学費延納許可願用紙に理由および納入予定月・日を記入して、その承認を得なければならない。

○所定年限以上在学する学生について

所定年限以上在学する学生の授業料および施設費は、当該年度第4年度生の所定額の二分の一を基本料として第1期に徴収し、登録単位一単位につき、基本料の三十分の一を単位料として第2期に徴収する。

基本料および単位料の合計額が、当該年度第4年度生の所定の授業料および施設費の合計額を超える場合は、授業料および施設費の合計額をもって限度とする。

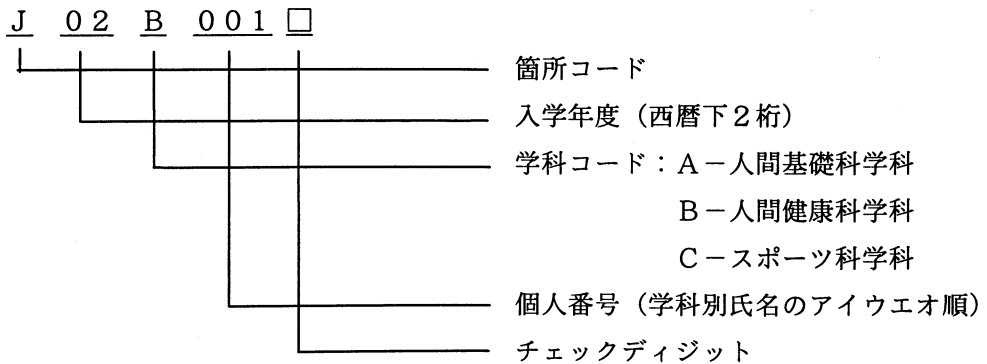
IX. 学籍事務

1. 学籍番号

学生は各自学籍番号をもつ。

学籍番号は各自の氏名にも代わるほど重要なもので、間違わないように記憶しておく必要がある。

2002年4月に人間健康科学科1年次に入学した者は



(注)CHECK-DIGIT(CD)はコンピュータへ学籍番号を入力する際にのみ使用する数字で、正しく入力されたかどうかをプログラムでチェックするためのものである。科目登録や諸届に必要なから一緒に記憶しておくこと。

2. 学生証（身分証明書）

本大学の学生には入学と同時に学生証（身分証明書）を交付する。本学ではカード式の学生証を使用する。この学生証（カード）は、その身分を証明するために必要であるばかりでなく、学習上・事務手続き上のいろいろな場合に必要であるから常に携帯し、破損・紛失のないように注意しなければならない。

1) 学生証は、学生証（カード）と有効年度を明示した「裏面シール」とからなり、学生証（カード）の裏面に「裏面シール」を貼り合わせてから、効力が生じる。

2) 学生証の交付を受けたら、速やかに学生証の裏面に「裏面シール」を貼り、学生証の氏名欄に、黒い油性のペンまたはボールペンで氏名（漢字）を楷書で記入すること。

なお、漢字を持たない留学生は、裏面シールの氏名欄に印刷されているアルファベットと同じように、活字体で記入する。

3) 学生証（カード）は、在学期間中使用する。

ただし、写真変更希望者に対し、在学中1回に限り無料で交換を行う。希望者は事務所に相談すること。

「裏面シール」は、毎学年度末に学部事務所で交付するので、自分で貼り替えること。

4) 各種試験を受験するとき、図書館利用のとき、学割、各種証明書の交付を受けるとき、その他学部から指示があったときなどには、必ず学生証を提示しなければならない。

5) 住所を変更したときは、速やかに学部事務所に届け出ること。

通学定期券発行控欄が一杯になった時は、学部事務所で追加シールを交付する。

6) 学生証は他人に悪用されるおそれがあるので、紛失しないよう十分注意すること。もし紛失したときは、学部事務所にただちに届け出ること。

7) 紛失その他の理由で学生証の再交付を受けるには、学部事務所に申し出て、再交付願用紙に所定事項を記入のうえ、所定の手数料(2,000円)とカラー写真一枚を添えて申し出ること。再発行には申込み後数日要するので注意すること。なお、同一年度内に一度を越えて再交付を願い出の場合は、保証人の連署を要する。学生証を再交付されたら、上記2)の手続きをただちにとること。

8) 学生証は、卒業または退学などにより学生の身分がなくなると同時にその効力を失うものであるから、これらの場合は、事務所にただちに返還しなければならない。

3. 事務所の事務取り扱い時間

平常期間	夏・冬季休業期間
平 日……午前9時～午後5時	平 日……午前9時～午後4時
土曜日……午前9時～午後2時	土曜日……閉室
休憩時間 12時30分～午後1時30分	休憩時間 12時30分～午後1時30分
〔注〕次に記す日は事務取扱いをしない。	
日曜・祝日，創立記念日，夏季事務所一斉休業期間，年末年始	

4. 各種証明書および学割証の発行

- 1) 証明書および学割証は，学生本人が入学時に届け出た暗証番号により自動証明書発行機（学内設置のどの機械からも発行可）で取得することができる。
- ただし，卒業生の証明書は，人科事務所での発行のみとなる（2002年4月現在）。
- なお，学割証は年間10枚まで発行する。有効期間は発行日より3カ月間である。
- 2) 通学証明書を必要とする者は学部事務所において所定の手続きをとり，その交付を受けること。
- 3) 各種証明書の料金は次のとおりである。

証明書種別一覧表

種 別	種 別	
在 学 証 明 書	英文	そ の 他 証 明 書
成 績 証 明 書		在 学 証 明 書
卒 業（修了）見込証明書		成 績 証 明 書
卒 業（修了）証明書		卒 業（修了）見込証明書
成 績・卒 業見込証明書		卒 業（修了）証明書
成 績・卒 業証明書		そ の 他 証 明 書
退 学 証 明 書	〔証明書料金〕	
在 学 期 間 証 明 書	在籍者 1通200円	
学 位 取 得 証 明 書	卒業者・退学者等 1通300円	
教員免許状取得見込証明書	（ただし，卒業者がその卒業日の属する 月末までに申請する証明書料金は，1通 200円とする。）	
教員免許状単位取得証明書		
進 学 調 査 書		
学 生 証（再交付）	2,000円	

5. 諸願および諸届

学生諸君が勉学上の事故や身分その他に異動があった場合には、必ずその事項についての願または届を提出しなければならない。以下その要領を説明する。

1) 諸願・諸届の作成についての注意

- (1) 用紙は学部事務所で交付する所定の用紙を用いること。
- (2) 楷書ではっきり記入すること。(鉛筆不可)
- (3) 休学願、復学願、退学願の本人氏名および保証人氏名の記入は、それぞれの自署とする。押印も同じ。

2) 諸願・諸届提出についての注意

(1) 留 学 願

留学しようとする者は、「在学中に海外留学をする者の取り扱いに関する規程」の項を参照のこと。

(2) 休 学 願

ア. 病気その他の正当な理由により、引き続いて2カ月以上授業(試験を含む)に出席することができない者は、所定の「休学願」を提出し、学生担当教務主任または副主任の面接を受け、教授会の承認を得て休学することができる。

イ. 休学は当該学年限りであるが、特別の事情のある場合には、引続き1年に限り休学を許可することがある。

ウ. 病気で休学する場合は、必ず医師の診断書を添えなければならない。

エ. 休学中でも授業料は指定された期日までに納入しなければならない。

○休学願が4月30日までに提出された場合

〔1期分および2期分が半額免除〕

○休学願が10月31日までに提出された場合

〔2期分が半額免除〕

○休学願が11月1日以降に提出された場合

〔全額徴収〕 ※12月1日以降は休学申請を受け付けない。

○学年延長者

〔基本料(当該年度所定の授業料の2分の1)〕

(3) 復 学 願

ア. 復学は学年初めに限られる。

イ. 病気による休学で復学する場合は、必ず就学可能と認める医師の診断書を添付しなければならない。

ウ. 復学を許可された者は、その年度の第一期分の授業料等を納入し、学生証裏面シールの交付を受ける。

(4) 退 学 願

ア. 退学を願い出る場合は、退学願のほかに学生証を添えなければならない。

イ. 学年の途中で退学する場合でも、その期の学費を納めなければならない。納入していない場合は、退学扱いとはせず抹籍扱いとする。

(5) 現住所変更届、改姓（名）届、その他

ア. 本人または保証人が住所を変更した場合には、ただちにその旨を学部事務所に届け出なければならない。

イ. 改姓（名）を行った場合には、その届に戸籍抄本を添付しなければならない。

ウ. 保証人が死亡した場合、またはそのほかの理由で変更を必要とする場合には、新しい保証人を選定して届け出なければならない。

（学則第32条～35条参照）

X. 学生生活

1. 奨学金制度

本大学の奨学金は、次のように大別される。

	奨学金名	奨学金のあらまし
学内	大隈記念奨学金（給付）	本学の創立者大隈重信を記念し、建学の精神を顕揚し、人材の育成に資することを目的とする。
	小野梓記念奨学金（給付）	本学創立当初の功労者小野梓を記念し、修学上、特に経済的に困難な学生を援助することを目的とする。
	早稲田大学貸与奨学金 （貸与）	経済的理由で、学費を納めることが困難と認められる学生に授業料を貸与することにより、修学上の便宜を図ることを目的とする。
	指定寄附に基づく奨学金 （給与・貸与）	校友・父母・篤志家など本学を支援して下さる多くの方々からの寄附によるもので、20種の奨学金がある。
	浅井邦二奨学金（給付）	浅井邦二名誉教授が人間科学部学生への奨学金として指定寄附された基金をもとに設立された。
	人間科学部奨学金（給付）	人間科学部学生の勉学を経済的側面から支援することを目的として人間科学部教員有志およびその趣旨に賛同する者からの寄附をもって設立された。
校友	早稲田カード奨学金（給付）	早稲田カードの提携手数料等の繰入金により、経済的に特に修学困難な学部学生を援助することを目的とする。
	校友会給付奨学金（給付）	修学上特に経済的に困難な学部学生を援助することを目的とする。
学外	日本育英会奨学金（貸与）	国の育英奨学金制度で、経済的理由により修学困難な者に学資を貸与することによって、教育の機会均等を図るとともに、社会に貢献する人材を育成することを目的とする。
	地方公共団体の奨学金	本大学で取り扱っているものは約50団体あり、そのほとんどが貸与制である。
	民間団体の奨学金	本大学で取り扱っているものは約90団体あり、給付制と貸与制がある。

上記の奨学金に出願するためには、2月～3月に奨学課で奨学金登録をしなければならない。登録の有効期間は1年間である。手続きの詳細は「CHALLENGE（奨学金情報）」に掲載されているが、学部の奨学金掲示にも注意すること。

なお、家計支持者の死亡・失職または災害などにより、家庭の経済状況が急変した場合は、未登録であっても学部事務所または奨学課に申し出ると、日本育英会または早稲田大学貸与奨学金の応急採用・災害採用などが適用される場合がある。

また、外国人留学生対象の奨学金は、国際教育センターで取り扱っている。

2. 褒賞制度

学術、芸術、スポーツなどに、とくに抜群の成果をあげ、学生の模範と認められるものに対しては、小野梓（おのあずさ）記念賞を授与する。（『Compass学生の手帖』参照）

なお、本賞には次の4賞がある。

- 1) 小野梓記念学術賞…卒業研究など在学中に作成された研究成果に対し、審査のうえ授与する。
- 2) 小野梓記念芸術賞…在学中に作成し、かつ発表した、小説、脚本、文芸評論、詩歌、絵画、彫刻、音楽などを選考の対象とし、審査のうえ授与する。
- 3) 小野梓記念スポーツ賞…世界的記録など卓抜の成果をあげたものまたは団体に対し、審査のうえ授与する。
- 4) 小野梓記念特別賞…1)、2)、3)に属さないもので、小野梓記念賞を受けるに値すると認められた者または団体に対し、審査のうえ授与する。

3. 所沢キャンパス内における遺失物について

所沢キャンパス内で拾得された遺失物は事務所にて保管する。遺失者は速やかに申し出ること。なお、現金・貴金属をのぞく物品については、事務所内右奥の〔拾得物ケース〕に保管してあるので、遺失者は確認のうえ申し出ること。

学生証紛失の場合は、呼出し掲示を確認のこと。

4. 学生相談

修学上・制度上の諸問題や身近な事務上の諸問題については、学部事務所カウンターで随時相談を受付けている。ことに科目履修等の問題は、早目に相談して、間違いのないようにすることが大切である。

学生生活の精神的諸問題や学習方法の細部にわたる指導・助言は、諸君の所属するクラスのクラス担任が行う。学部専任教員1名が各クラスを担当しているので、当該教員の授業の前後や指定された日時に研究室を訪れるなどして気軽に相談し、この制度を活用してほしい。なお、第1年次においては学生約30名で1クラスが編成されている。

相談の内容によっては、教務主任・教務副主任が相談にあたり、諸君の悩みに答えながら、大学および学部としてとるべきもっともよい解決方法について検討し、適切な示唆助言を与えることになっている。

このほか「総合健康教育センター（所沢分室）」が、学部の担当者に直接相談しにくい

心理的問題や精神衛生上の問題に関するカウンセリングを取扱っている。心理専門相談員や専門の医師が担当し、本人以外の父母や友人からの相談にも応じている。もちろん相談内容は一切秘密とされる。詳細については 72 ページを参照のこと。

5. 課外活動

学生生活は、通常、講義を中心として営まれるものであるが、単に専門知識を得ることだけが大学生活のすべてではない。もちろん、専門知識の修得を怠ってはならないが、そのみに走るあまり、自己の殻に閉じこもって閉鎖的、孤立的生活に陥ったり、片寄った人間になることは避けなければならない。

本学部には教職員と学生が一体となり、スポーツ等を通じて親睦を図ることを目的とした人間科学部デーが設けられている。また、学生が自発的に課外活動を行う団体（サークル）として、学部の公認する学生の会がある。これらの団体は学術、芸能、スポーツなどの各分野にわたり、いずれも多く多くの学生が参加して、活発な活動を行っている。

さらに、本大学には広く各学部の学生が参加し、多種多様な活動を展開している学生の会もあり（『Compass 学生の手帖』参照）、自己の希望に応じて、どの団体にも任意に加入することができるようになっているから、学生諸君は大いにこれらを利用し、学生生活をより充実した豊かなものとされたい。

学部承認の学生の会

「学部承認の学生の会」（以下「学生の会」）とは、人間科学部公認のサークルであり、「学生の会」を設立しようとする者は、毎年度始めに所定の手続きをとらなければならない。

なお、「学生の会」として承認されたサークルは以下の利用が可能である。

- 1) 所沢キャンパス内の教室、スポーツ施設（陸上競技場は除く）、及び学生共同利用室
- 2) サークル用ロッカー
- 3) 西早稲田キャンパス 第2学生会館内の施設

学生専用掲示場

学生専用掲示場は、所定の場所に設置してある。この掲示場の使用については、次の注意事項を厳守すること。

- 1) 掲示に際しては、学部事務所に申し出て、承認印を受けること（1 団体 3 枚まで）。
- 2) 掲示物を固定する際には、セロテープまたは画鋲を使用すること。
- 3) 掲示物には掲示開始の日を記入すること。2 週間を経過したものは、学部で撤去することがある。

- 4) 掲示物の大きさは新聞紙大以下であること。
- 5) 掲示物は、所定の掲示場に貼ること。

6. 早稲田大学学生健康保険組合

この組合は、早稲田大学学生の相互扶助の精神に基づき、在学中の健康管理や傷病等につき一定額の補助を行い、学生の経済的負担をできる限り軽減させることを目的としている。

詳細については、『Compass学生の手帖』および『学生健康保険組合案内』（学部事務所前の棚）を参照のこと。

7. 学生教育研究災害傷害保険（学災保）

この保険は、教育研究活動中や課外活動中の不慮の災害事故補償のために、保険料全額大学負担で、財団法人内外学生センターと国内損害保険会社との契約により実施されているもので、大学施設内外の正課中、大学行事中、課外活動中（大学施設外の場合は事前の届け出が必要）、大学施設内の事故を保険適用範囲としている。

事故の発生は未然に防止するよう日頃から入念な対策が講じられるべきだが、万一事故が発生した場合は、この保険金を大学から「見舞金」として給付する。

適用範囲や手続き方法については事務所で説明するが、課外活動中の事故の場合は、事前の届け出がなければ、適用を受けることができない。各サークルは、大学外での諸活動（合宿・研究・見学旅行・登山・試合など）を行う場合は、必ず、第1学生会館事務所に事前の届け出を行うこと。またゼミ合宿等は学部事務所へ、体育各部の部活動は体育局に事前の届け出を行うと共に、万一事故が発生した場合は、必ず事故報告を行うこと。

特に、夏季・冬季授業休止期間中などに国外において課外活動を行う際には、事前に綿密な計画を立て、予備調査を行った上、届け出を行うと共に、早稲田大学学生であると同時に社会的責任を負うべき市民であることを自覚し、節度ある行動をとることを希望する。

8. 学生応急貸付

本大学学生は、学生生活上緊急の必要に迫られた場合、貸付金をうけることができる。詳細は『Compass学生の手帖』を参照のこと。

9. アパート・貸間の紹介

アパート・貸間等の紹介を希望する場合は、西早稲田キャンパス2号館学生生活センターへ申し出ること。詳細は『Compass学生の手帖』参照のこと。

10. アルバイトの紹介

アルバイトについては、学生生活課（戸山キャンパス30号館1階）掲示板とウェブサイト(http://www.waseda.ac.jp/student_board/)において随時募集情報を公開しており、申込方法等の詳細に関してはそちらを参照すること。

なお塾予備校講師の申込受付と家庭教師希望者への紹介状発行は人間科学部事務所でも行なう。

ただし、家庭教師を希望する者は登録（登録期間は前期・後期の各1回）が必要となるので、学生生活課にて登録手続き（詳細は『Compass学生の手帖』を参照）を行うこと。

11. 就職活動

西早稲田キャンパス構内25号館1階に学生生活センター就職課が設けられており、卒業予定者に対して、「就職手帖」の交付等を行い、学生の就職活動をサポートしている。

なお、本キャンパスでは、第2学生食堂内に就職資料室と相談室があり、所定の日時に本部から担当員が来て相談に応じている。

X I . 施設

1. 総合健康教育センター所沢分室

学生食堂近くの308号室にあり、次の業務を行っている。

内線 3308 緊急内線 3000 電話 042-947-6706 F A X 042-947-6804

<http://hsctr.human.waseda.ac.jp/>

業務内容

- 1) 学生・教職員の定期健康診断, 特殊健康診断
- 2) 各種健康診断書の発行 (ただし, 定期健康診断を受診した者に限る)
火 10:30~12:40 (個人カード持参のこと)
水 10:00~12:15 (")

※上記以外の日は, 西早稻田キャンパス 25-2号館 5F (TEL:03-5286-9800) で発行。

※就職用健康診断証明書は, 7月1日以降, 所沢キャンパス事務所にある証明書自動発行機から受け取ることができる。

- 3) 健康相談
- 4) スポーツ障害相談, リハビリ相談
- 5) 内科相談
- 6) 精神保健相談, その他の相談

※精神科医および心理専門相談員による相談は, 予約制

- 7) 救急処置, 予防処置, 傷病者の休養
- 8) 保健統計および健康管理に関する調査研究
- 9) 健康教育

総合健康教育センター所沢分室週間予定表

	月	火	水	木	金	土	受 付 時 間
応 急 処 置	○	○	○	○	○	○	9:00~12:30 13:30~16:30 *土は午前のみ
健 康 相 談							
診 断 書 発 行							火 10:30~12:40 水 10:00~12:15 *健康診断書発行希望者は 健康個人カード持参のこと
内 科 相 談		○	○				
スポ-ツ障害相談	○			○			9:00~14:00 *定員になり次第締切
リハビリ相談	○			○			9:00~14:00
精 神 保 健 相 談		○					10:30~12:40
学 生 相 談	○	○		○	○		12:00~17:00 *要予約

2. 早稲田大学所沢図書館

所沢図書館は、4階の学部事務所前のホールに隣接しており、人間科学部に関連する研究図書資料や学習図書資料を中心に、参考図書および一般教養関係図書資料を所蔵している。

当図書館内には、開放閲覧室、開架閲覧室、閲覧個室、グループ閲覧室、新刊学術雑誌コーナー、逐次刊行物バックナンバー書庫、新聞閲覧コーナー、コピーコーナー、AVコーナー、情報検索室等の施設があり、学生諸君は書架にある図書を自由に利用でき、必要な図書資料等のデータを端末機で検索することができる。

1) 開館時間

平日 9:00～19:00

土曜日 9:00～16:00

ただし、開放閲覧室は、午前8時30分～午後9時まで利用できる。

2) 閉館日

日曜日、祝日、大学創立記念日、春・夏・冬季休暇中の一定期間。

そのほか、業務上休館の必要がある場合。

3) 図書館の入退館

- (1) 入館するときは、学生証を自動入館装置に挿入して入館する。
- (2) 退館口にはBDS（図書帯出防止装置）が設置されているので、本を無断で持ち出そうとすると、警報装置が作動する。図書を館外に貸出する時は、カウンターで手続きをすること。

4) 貸出・返却

- (1) 貸出・返却は、カウンターで手続きをすること。なお、閉館時の返却には、専用のブックポストも利用できる。
- (2) 貸出冊数、貸出期間は館内の掲示等を参照のこと。
- (3) 参考図書および雑誌等は、館外に貸出できない。
- (4) 返却期限が過ぎても返却がない場合には、反則規定が適用される。
- (5) 図書を紛失したり、破損したときには、ただちに届出ること。原則として現物または相当金額を弁償することになる。

5) 利用上の注意

- (1) 館内では、他人に迷惑をかけないように、雑談などは慎むこと。
- (2) 閲覧した図書は、配架されていた元の位置に戻すこと。
- (3) 館内は禁煙とする。
- (4) 館内への飲食物の持込みを禁じる。
- (5) 入館する際には、携帯電話の電源を切っておくこと。

6) 図書館の施設利用

(1) 開放閲覧室 (46席)

ホールから入るとすぐに開放閲覧室があり、ここは、図書館の閉館後も利用できる。

(2) 新聞閲覧コーナー

ソファを設置してロビー風にしてあるので、気軽に利用できる。当日分から約1ヶ月分保存してある。

(3) AVコーナー

ビデオ・LD・DVDが利用できる。

(4) 情報検索室

情報検索のための端末機が設置してある。CD-ROMのネットワーク利用およびインターネット接続パソコンや、マイクロリーダー・プリンター等が利用できる。

(5) エントランスホール

カウンター脇のエントランスホールは、ソファを配置してロビー風になっている。付近に一般雑誌および文庫本を配架してある。

(6) グループ閲覧室 (10席/2室)

グループで学習および研究等を行うときに利用できる。利用するときは、カウンターに申込むこと。

(7) コピーコーナー

プリペイドカード方式の複写機をコピーコーナーに設置してある。利用は図書館所蔵資料のコピーにかぎる。

(8) 参考図書コーナー

辞書、事典、便覧、ハンドブック、地図等の参考図書が収められている。

(9) 開架閲覧室 (200席)

和書が配架されている開架書架をはさんで、南側と北側に閲覧席がある。

(10) バックナンバー書庫

内外の合冊された雑誌が、和雑誌は誌名のアイウエオ順、外国雑誌は誌名のABC順に集密書架に配架されている。

(11) 洋書コーナー

洋書は、バックナンバー書庫隣の集密書架に配架されている。

7) 資料の探し方

WINE(Waseda University Information Network System)というオンライン情報システムを利用して、所蔵している全ての図書・雑誌のデータをオンラインで検索できる。また、ネットワークで結ばれた中央図書館、高田早苗記念研究図書館、戸山図書館、理工学図書館、語学教育研究所、演劇博物館、国際教育センター等の蔵書についても、同時に検索することができる。

8) 中央図書館などの利用

中央図書館、高田早苗記念研究図書館、戸山図書館、理工学図書館、学部・研究所図書室が所蔵する資料は、所沢図書館で取寄せることができる。また、中央図書館、戸山図書館、理工学図書館で借りた図書を、所沢図書館で返却することもできる。

※ 早稲田大学創立100周年記念事業の一環として計画され建設された中央図書館は、図書収蔵数約200万冊、座席数1,900席という、大学図書館としては全国有数の設備規模を誇る図書館である。直接行って利用することもできる（学生証を必ず持参すること）。平日及び土曜日の開館時間は9:00～21:00、日曜日は10:00～17:00である。詳しくは、『中央図書館利用案内』を参照のこと。

3. 教室および学生共同利用室

学生団体の教室および学生共同利用室使用許可は、以下の内規による。

1) 基本的条件

使用を希望する団体の、部長・会長・顧問等が本学部専任教員であること。ただし、学生担当教務主任が認めた場合はこの限りではない。

2) 使用を許可する教室

各教室・演習室および学生共同利用室。

ただし、特殊教室（LL教室・視聴覚教室・教育工学室・212教室）は技術管理室に、学生実習室は各学科室に問い合わせること。

3) 使用を許可する期間・時間

授業期間中。授業・研究および大学・学部の諸業務に支障のない範囲で午前8時から午後9時30分までの間。

上記以外の期間・時間に使用希望の場合は、あらかじめ事務所に問い合わせ、別途許可を得ること。

ただし、下記の期間は教室の使用は許可しない。

- ① 前期授業開始後2週間
- ② 定期試験の開始2週間前から定期試験の終了するまで。

4) 以上の条件を満たしても、次に掲げる事項に該当する場合には使用を許可しない。

また、すでに許可された後であっても授業に支障をきたすおそれがある場合には、これを取消し、使用を中止させることがある。

- ① 施設・設備を損傷するおそれのあるとき
- ② 楽器演奏等、騒音・振動の激しいとき
- ③ 机・イス等の備品を移動・搬出しようとするとき
- ④ 使用届の記載事項と異なった使用をしているとき
- ⑤ 共同利用室に荷物等を放置し恒常的に利用しているとき
- ⑥ その他、管理上支障があると認められるとき

5) 使用を許可された場合でも、施設・設備を破損・滅失した場合は、原則として賠償を要求される。

6) 手続き手順

- ① 事務所で、希望する教室の状況を確認し仮予約をする。
- ② 所定の使用願に必要事項を記入し、事務所に提出する。受け取った控えは、使用当日も所持すること。
- ③ 手続きは、使用日の3日前までに完了すること。使用願には担当教員の押印が必要なので、時間に余裕を持っておくこと。
- ④ 学生共同利用室は使用毎に事務所で鍵の貸出を受け、使用後は施錠して鍵を返却すること。

4. スポーツ施設

所沢キャンパス内で使用できるスポーツ施設は、野球場・テニスコート・スポーツホール第1実習室（体育館）・スポーツホール第2実習室（体操場）・スポーツホールトレーニング室・アクアアリーナ（プール）であり、下記の条件に基づき使用することができる。

施設名	野球場・テニスコート スポーツホール第1実習室 スポーツホール第2実習室	スポーツホール トレーニング室	アクアアリーナ
使用条件	体育各部（原則として所沢キャンパスを主たる活動場所としている部） 学部承認の学生の会（スポーツ系，文科系） クラス・ゼミ 等 ※個人貸し出しは行わない	原則として，器具使用等についての講習（トレーニング室にて開講）を受講した本学部学生	健康上問題ないと判断された者で，アクアアリーナ使用許可証の交付をうけた本学部学生
申請方法	体育各部，学生の会（スポーツ系）については，毎年度始めに行う使用時間の割り振りに基づき， <u>使用する前月の1日～10日までに所定の申請書を事務所に提出し，許可をうけること。</u> それ以外の者は，事務所で随時申し込みをすること。 ※申請書の提出がなかった場合は使用出来ない。	トレーニング室開室中随時開催されている講習を受けること。	①所定の申請書 ②健康個人カードのコピー（当該年度の春の健康診断・心電図検査を受診していること） ③2,000円 上記①～③を添えて事務所に申請すること。
使用時間	月～土…8：00～20：00	月～金…15：00～19：00	月～金……12：10～13：00 月…4時限，水～金…3時限 ※年度により異なるので事務所で確認すること
備 考	原則として，日曜・祝日・授業休止期間中（補講・定期試験期間を含む）は使用出来ない。使用希望がある場合は，別途事務所に申し込むこと。また，使用を許可する曜日・時間については， <u>使用状況等により後日変更・使用制限をすることがあるので，掲示に十分注意すること。</u>		

5. 端末室

所沢キャンパスには、下記の通り3つの端末室が設置されている。

なお、詳細については、100号館3階情報システム運営室（開設時間：平日9時～17時、土曜日…9時～14時　ただし12時半～13時半は昼休み）に問い合わせること。

	321端末室	322端末室	323端末室
所 在	100号館3階	100号館3階	100号館3階
利 用 時 間	平 日 9：00～20：00 土曜日 9：00～20：00	平 日 9：00～20：00 土曜日 9：00～20：00	平 日 9：00～20：00 土曜日 9：00～20：00
用 途	授業での専有利用ができる。専有利用されていない時間は、オープン利用となる。	授業での専有利用ができる。専有利用されていない時間は、オープン利用となる。	授業での専有利用ができる。専有利用されていない時間は、オープン利用となる。
利用可能機器	Apple パーソナルコンピュータ (iMac) 54台	Apple パーソナルコンピュータ (iMac) 54台	Apple パーソナルコンピュータ (iMac) 8台 IBM-PC/AT互換機 (IBM PC300PL) 23台

- 注) 1. 利用時間は時期などによって変更する場合がある。掲示、人間科学部のウェブサイト
(<http://www.human.waseda.ac.jp/>) 内での案内に注意すること。
2. 端末室は授業、運営室主催のセミナー等で専有利用する場合がある。

X II. 大学院への進学

大学院には博士課程が設置されている。博士課程の標準修業年限は5年である。博士課程は前期2年、後期3年の課程に区分され、前期2年の課程を修士課程とし、後期3年の課程を博士後期課程とする。博士後期課程は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を養うものである。修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力を養うものである。

本大学を卒業すれば大学院を受験する資格ができる。

早稲田大学大学院のうち、人間科学研究科へは推薦入学制度を利用して入学することができる。詳細は学部掲示板を通じて周知する。

その他の大学院の内容、入試制度等の詳細については、各研究科事務所に問い合わせること。

XⅢ. 早稲田大学派遣交換留学制度およびその他の留学

1. 留学の種類について

- ① 交換留学プログラム
- ② トランスナショナルプログラム
- ③ 短期プログラム
- ④ その他の留学（私費留学）

※留学に関する詳細は『VOLANTE（早大生のための海外留学・研修の手引き）』を参照すること。（学部事務所、国際交流センターにて配付…年度始め）

2. 留学に必要な学部手続

- ①留学願 ②留学先の発行する入学許可書・受入書

※私費留学の場合は留学期間が39週以上ないと留学として扱わない。

必要な書類が整い次第、面接により留学を許可するか否かを判断する。

3. 単位認定

留学中に取得した単位のうち、30単位を限度に卒業に必要な所定単位として単位認定する。詳細については、人間科学部事務所に問い合わせること。

4. 在学年数

本大学に3年間、留学先の大学に1年間 計4年間在学し、かつ、単位認定によって卒業に必要な所定単位数を満たした者は、留学期間を在学年数に算入し、卒業とする。

5. 帰国届の提出

留学を終えて帰国した者は、留学先の在籍期間が明記された証明書を帰国届に添付し、すみやかに事務所に提出すること。単位認定を希望する者は、成績証明書を併せて提出すること

6. その他

この制度の詳細については、国際教育センター事務所（22号館4階）に問い合わせること。

2. 他大学との学生交流について

本学は、下記の大学と学生交流協定を締結し、本学に所属しながら他大学の設置科目を履修する制度を設けている。

◆国内留学

協定校：同志社大学（京都）

同志社大学との学生交流の特徴は、次のとおりである。

- 1) 派遣年度の4月1日現在で、2年度生以上の者を対象とする。
- 2) 派遣期間は、4月～翌年3月までの1年間である。
- 3) 早稲田大学での所属する学部・専攻にかかわらず、同志社大学の学部・専攻を自由に希望することができる。
- 4) 同志社大学で修得した単位は、30単位を限度として卒業に必要な単位として算入することが可能である。詳細については、人間科学部事務所に問い合わせること。
- 5) 学費は早稲田大学に納入し、同志社大学の学費は免除となる。延長生については、同志社大学での登録単位数により早稲田大学の学費を算定する。なお、同志社大学で実習料等（実費）が必要な場合は自己負担となる。

詳細は、募集要項等で確認されたい。募集要項・願書の配付は6月下旬頃事務所で行うので、掲示等に注意すること。

◆科目履修

協定校：①5大学間交流（学習院大学、学習院女子大学、日本女子大学、立教大学および早稲田大学）、②武蔵野美術大学、③東京女子医科大学、④東京家政大学、⑤京都地域42大学・短大

上記①～⑤の学生交流の特徴は、次のとおりである。

- 1) 4月1日現在で、2年生以上を対象とする。
- 2) 各大学の提供科目（オープン教育センター・ガイドブック参照）から、履修することができる。
- 3) 1年間の登録上限単位数は、①が12単位、②④が8単位、⑤が4単位、③が2単位とする。①～③は、それぞれの上限単位まで履修することができる。
- 4) 提供科目の科目登録は4月初旬に行う。
- 5) 各大学で修得した単位は、他学部聴講で取得した単位と同等に扱う。
- 6) 履修科目に対する授業料等は徴収しない。ただし、延長生については単位料計算時の登録単位に含まれる。なお、実習料等は自己負担となる。

3. その他の留学制度について

派遣交換留学制度によらずに下記の機関に留学を予定する者は、手続き・必要書類・単位認定基準等に注意を要する場合があるので、計画を立てたら早めに事務所に届け出ること。

- 海外の大学または高等教育機関に在籍する留学
- 海外の大学附属の語学研修機関等に在籍する留学
- 海外の一般語学学校、コミュニティ・カレッジに在籍する留学

① 対象者

語学力および学業成績が優秀である者

なお、留学期間（１年間）の学費（施設費等を除く）は免除する。

② 留学期間

４月１日～翌年３月３１日 または ９月２１日～翌年９月２０日

③ 留学期間前後の履修

９月２１日からの留学者については、前記１－③と同様とする。

④ 単位認定・在学年数・帰国届の提出

それぞれ、前記１－④・⑤・⑥と同様とする。

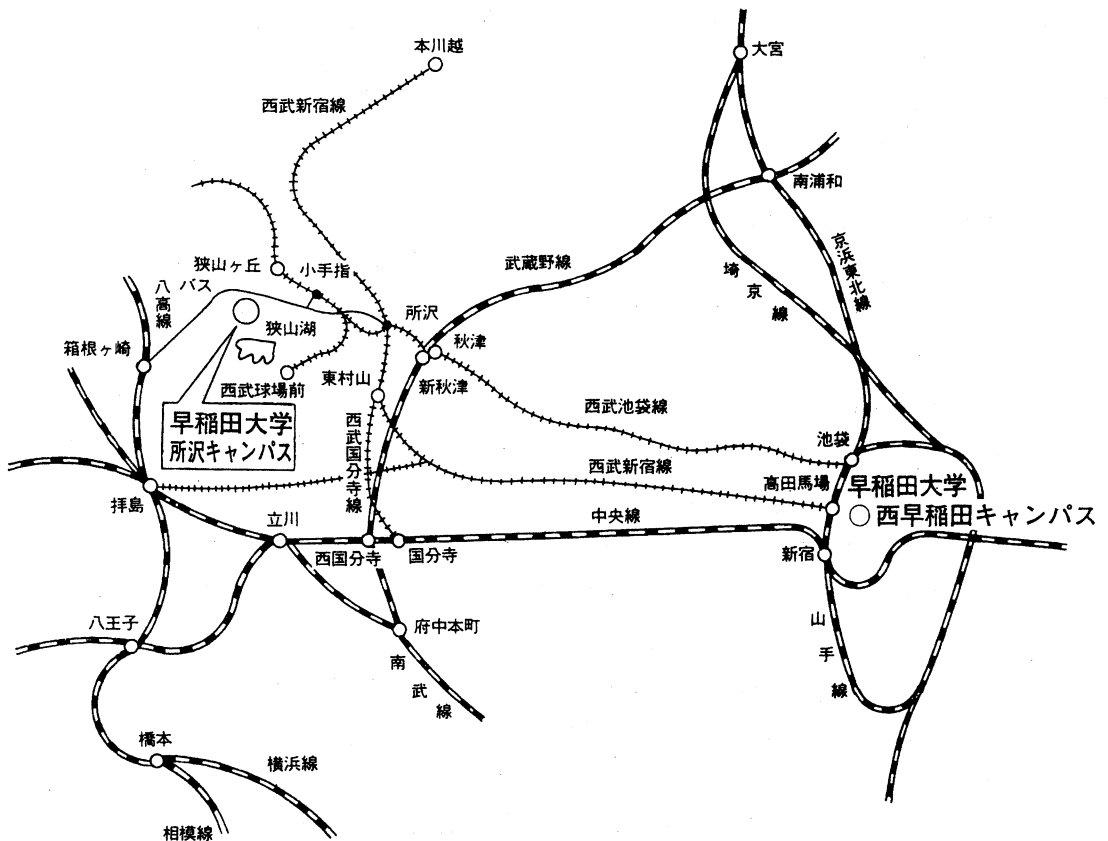
⑤ 留学先の変更

原則として留学先の変更は認めない。

XIV. その他

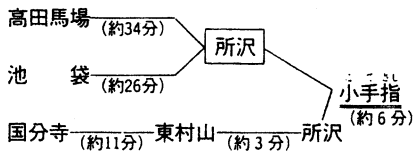
1. 所沢キャンパスへの交通案内図

所在地 〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島二丁目579-15

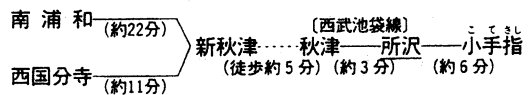


主な交通機関

〔西武線〕



〔JR 武蔵野線〕



〔西武バス〕(三ヶ島農協、宮寺、箱根ヶ崎行)

所沢駅——緑ヶ丘高校入口(下車)——箱根ヶ崎駅(JR 八高線)
(西口)(約24分) (徒歩約1分) (約30分)

早稲田大学所沢キャンパス

〔西武バス〕(早稲田大学行)

小手指駅——早稲田大学
(南口)(約12分)

2. 自転車・自動車・オートバイの駐輪場・駐車場の利用について

所沢キャンパス内は、安全を確保するために、やむを得ない事情のない限り自動車・オートバイ（原付二輪車）の乗り入れはできない。

ただし、自転車で通学する場合には、所定の申請書を学部事務所へ提出し、駐輪場の利用許可を得なければならない。また、事情により自動車・オートバイで通学する場合にも、所定の申請書を学部事務所へ提出し、駐車場・駐輪場の利用許可を得なければならない。

自転車・自動車・オートバイでの通学にあたっては、交通の安全、災害・騒音の防止等をはかり、教育環境の保持に努めなければならない。

1) 自転車で通学する場合

(1) 登録ステッカーの交付を受けるには、次の書類を事務所に提出しなければならない。

① 登録申請書（事務所庶務係に備付）

② 学生証

※ 駐輪場利用料金は無料

(2) 登録ステッカーの有効期限は、学部在学中とする。大学院に進学した場合は、新規の申請時と同様の手続が必要となる。

(3) 登録申請事項の内容に変更が生じた場合、登録車を変更する場合は、すみやかに事務所庶務係に届け出ること。

2) 事情により自動車で通学する場合

(1) 駐車許可証の交付を受けるには、次の書類等を事務所に提出しなければならない。

① 駐車許可申請書（事務所庶務係に備付）

② 学生証

③ 前年度分駐車許可証（前年度からの継続利用者のみ必要）

④ 駐車場利用料金（年額5,000円）

※ 駐車場利用料金については、年度途中からの申請でも同一額とする。

(2) 駐車許可証の有効期間は、交付を受けた年度（1年間）限りとする。次年度も利用する場合には、新規の申請時と同様の手続が必要である。

(3) 駐車許可申請事項の内容に変更が生じた場合、登録車を変更する場合は、すみやかに事務所庶務係に届け出ること。

(4) 駐車許可証を他人に貸与し、または他人から借用してはならない。

3) 事情によりオートバイ（原付二輪車）で通学する場合

(1) 登録ステッカーの交付を受けるには、次の書類を事務所に提出しなければならない。

① 登録申請書（事務所庶務係に備付）

② 学生証

※ 駐輪場利用料金は無料

(2) 登録ステッカーの有効期限は、学部在学中とする。大学院に進学した場合は、新規の申請時と同様の手続が必要となる。

(3) 登録申請事項の内容に変更が生じた場合、登録車を変更する場合は、すみやかに事務所庶務係に届け出ること。

4) 駐輪・駐車

(1) 自転車・自動車・オートバイは、それぞれ指定された駐輪場（駐輪指定場所）・駐車場に駐輪・駐車しなければならない。駐輪場（駐輪指定場所）・駐車場以外の駐輪・駐車は厳禁する。

① 自転車…正門自転車駐輪場または北門駐車場の自転車駐輪指定場所

② 自動車…北門駐車場

③ オートバイ…北門駐車場のオートバイ駐輪指定場所

(2) 駐輪場・駐車場の利用時間は、8：00から21：30までとする。（この時間帯以外は閉門となる。）

(3) 自転車は登録ステッカーを後輪カバーに貼り、自動車は駐車許可証をフロントガラスに表を向けて置き、オートバイは登録ステッカーをナンバープレート付近に貼っておくこと。

5) 注意事項

(1) 登録した自転車・自動車・オートバイ以外の駐輪・駐車は厳禁する。

(2) 大学・学部の行事、施設・設備の工事等により、駐輪場・駐車場の使用制限をすることがある。

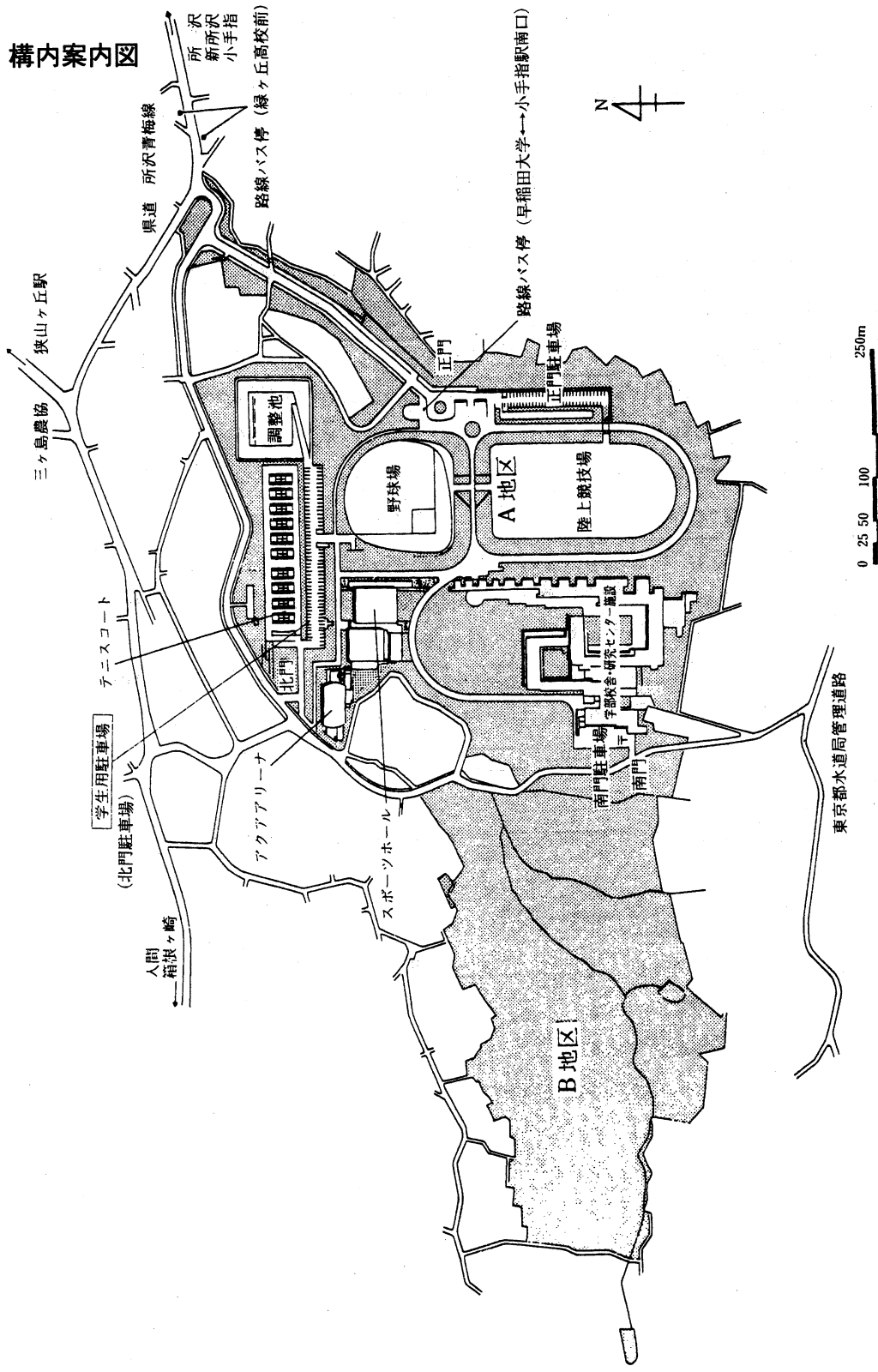
(3) 駐輪場・駐車場内では徐行し、所定の区分に従って、整然と駐輪・駐車すること。

(4) 駐輪場（駐輪指定場所）・駐車場以外の駐輪・駐車は、通行の妨げや災害時等の避難の妨げになるので厳禁する。駐輪場・駐車場以外に駐輪・駐車している場合、長期間放置されている場合は、管理上支障をきたすので排除または処分することがある。

(5) キャンパス内、駐輪場・駐車場で的人為的事故、損傷等は、当事者間で解決すること。また、駐輪・駐車中の事故、災害、盗難等には、大学は一切責任を負わないので、各自十分に注意すること。（警察が指導する「防犯登録」は必ずしておくこと。）

(6) 上記の事項に違反した場合、または大学の警告に従わない場合は、駐輪場・駐車場の利用許可を取り消すことがある。

3. 構内案内図

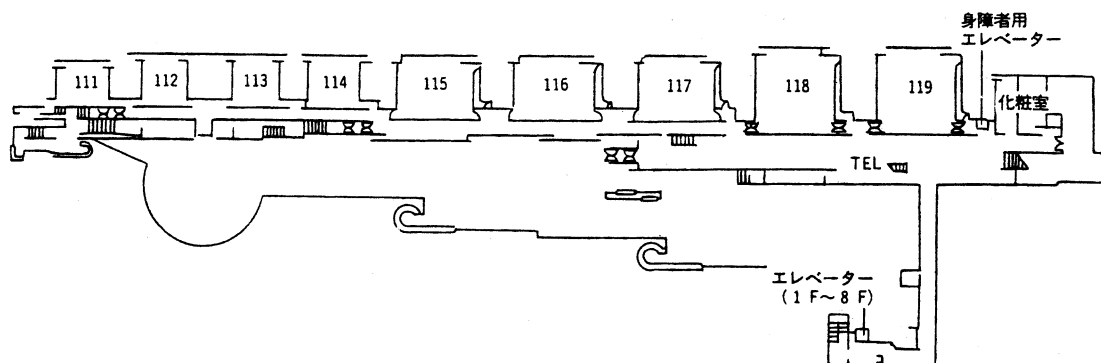


4. 建物・号館案内

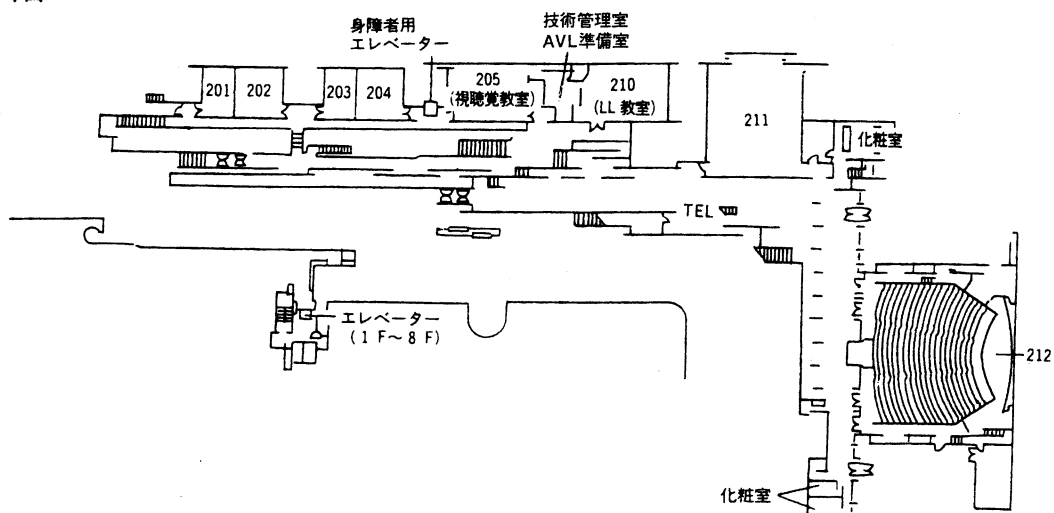
100 号 館	8 階	研究室
	7 階	研究室
	6 階	研究室 実験室 人間総合研究センター所長室・会議室 学科室（人間健康科学科）
	5 階	研究室 会議室 実験室 学生実習室 面接室 観察室 暗室 測定機室 工作室 学科室（人間基礎科学科）
	4 階	学部・大学院事務所 学部長室 教務主任・副主任室 学科室（スポーツ科学科） 所沢図書館・事務室・会議室 研究室 実験室 学生実習室 教職員食堂 教育工学室
	3 階	演習室 学生ラウンジ 総合健康教育センター（所沢分室） 学生共同利用室 コピー室 学生食堂 売店 就職資料室 情報システム運営室 端末室 労務員・清掃員室
	2 階	60人教室 350人教室 700人教室 演習室 視聴覚教室 LL教室 技術管理室 AVL準備室 埋蔵文化財展示室・整理室
	1 階	60人教室 140人教室 200人教室 学生ラウンジ 正門受付

教室案内図

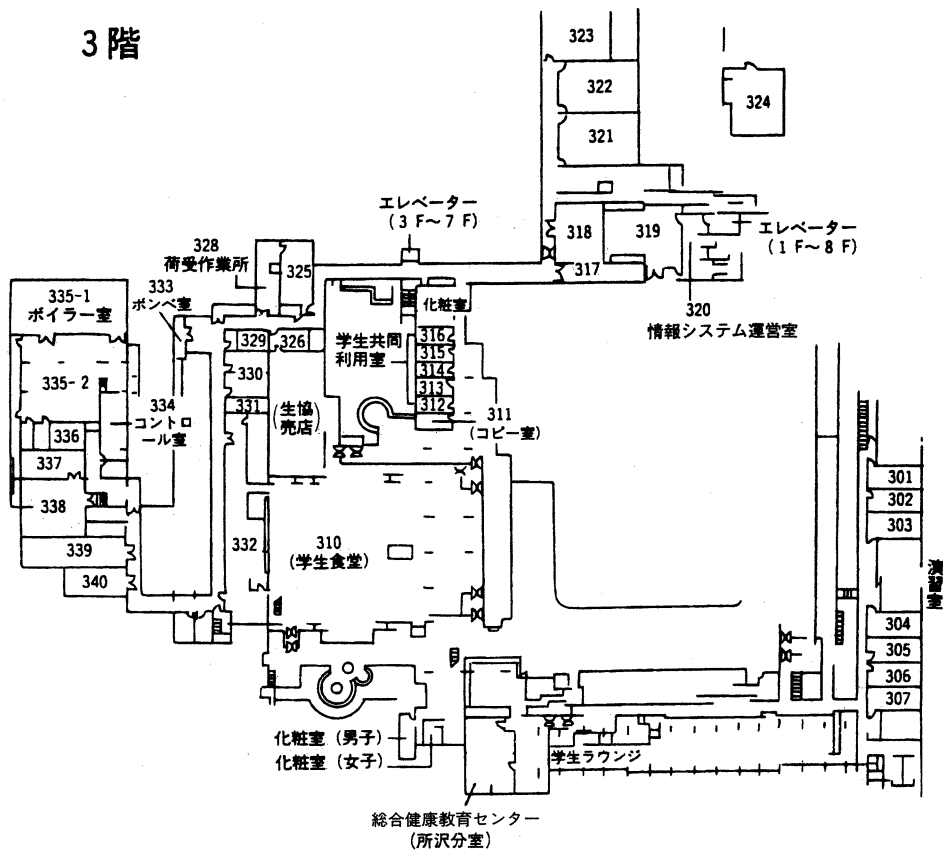
1 階



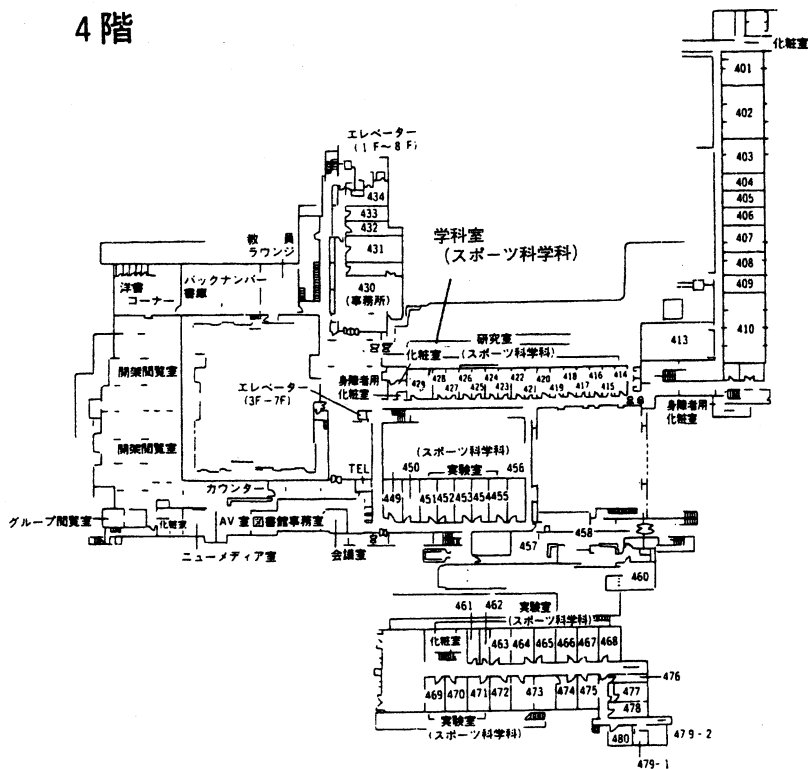
2 階



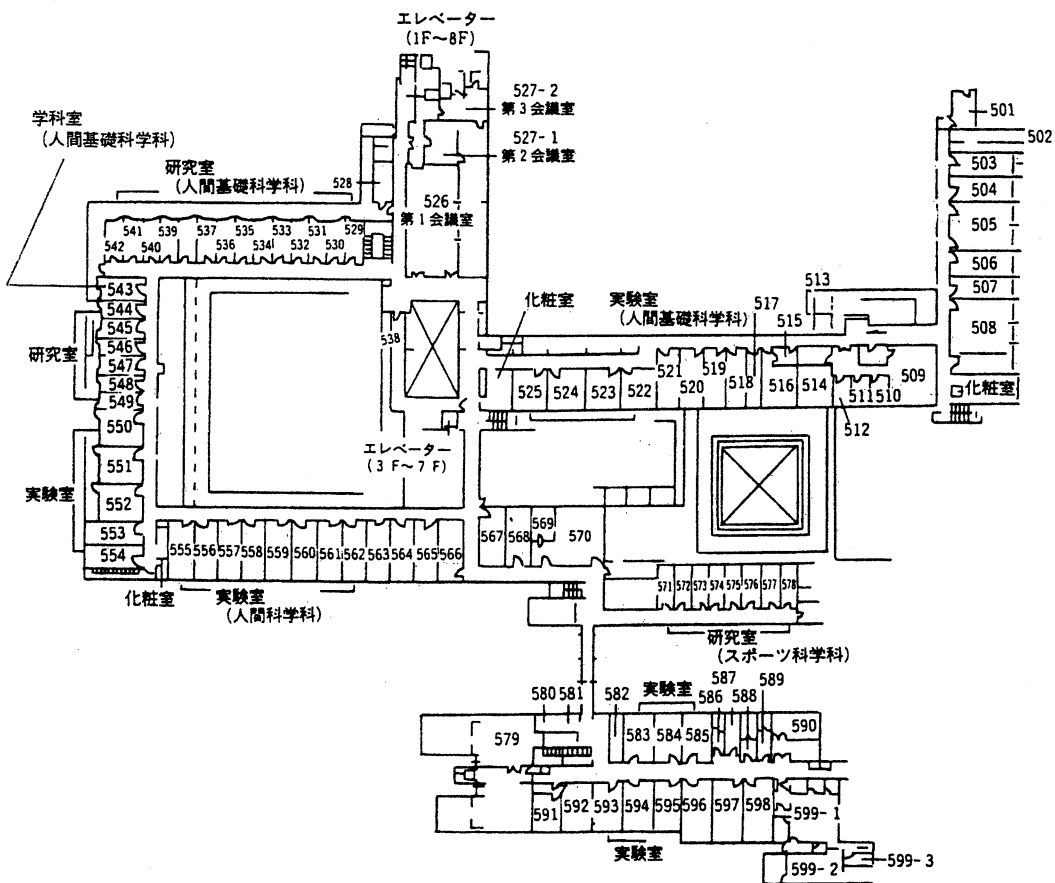
3階



4階



5階



西早稲田キャンパス

〒169-8050 東京都新宿区戸塚町1-104 TEL 03(3203)4141

J R 山手線 } 高田馬場駅 (徒歩20分)
西武新宿線 }

地下鉄東西線 早稲田駅 (徒歩5分)

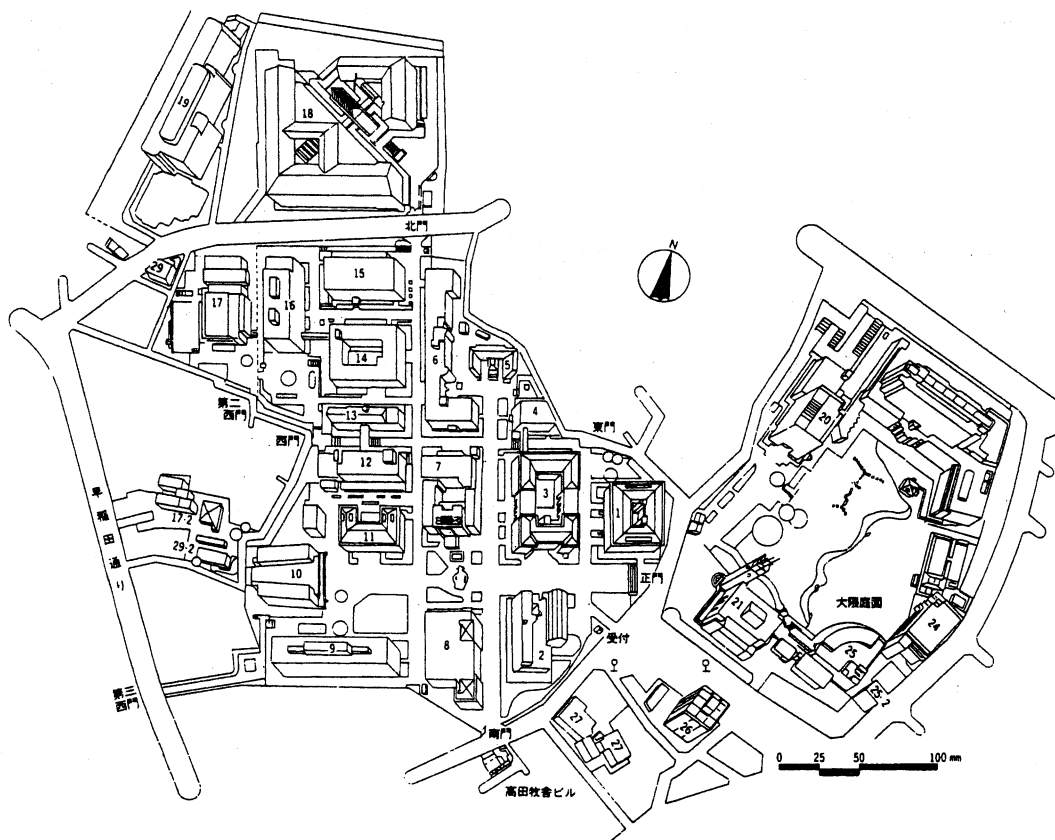
スクールバス 高田馬場駅-早大正門

都 バ ス 新宿駅西口-早稲田 (早大正門下車/徒歩1分)

// 渋谷駅-早大正門

// 上野広小路-早稲田 (徒歩5分)

都電荒川線 三ノ輪橋-早稲田 (徒歩5分)



1	現 政 研 他
2	学 生 生 活 セ ン タ ー
3	政 治 経 済 学 部 政 研 ・ 経 研
4	政 治 経 済 学 部
5	演 劇 博 物 館
6	国 際 部 他
7	語 研 他
8	法 学 部
9	法 研 商 研 比 研 産 研 研

10	共 通 教 室
11	商 学 部
12	商 学 部 社 研
13	社 会 学 部 研 究 室
14	社 会 学 部
15	共 通 教 室
16	教 育 学 部 教 研
17	体 育 館 生 協
17-2	相 撲 道 場
18	総 合 学 術 情 報 セ ン タ ー
19	早 大 西 早 稲 田 ビ ル

20	大 展 会 館
21	大 展 講 堂
24	メ デ ィ ア ネ ッ ト ワ ー ク セ ン タ ー
25	大 陽 ガ ー デ ン ハ ウ ス ・ 就 職 課
25-2	健 康 管 理 セ ン タ ー
26	第 二 学 生 会 館
27	学 生 会 館 他
29	生 協 教 ・ 職 員 組 合
29-2	エ ク ス テ ン シ ョ ン セ ン タ ー

高田教会ビル(4F)字面図

XV. 早稲田大学学則（抜粋）

目的・学科

第1条 本大学は学問の独立を全うし真理の探求と学理の応用につとめ、深く専門の学芸を教授し、その普及を図るとともに、個性ゆたかにして教養高く、国家及び社会の形成者として有能な人材を育成し、もって文化の創造発展と人類の福祉に貢献することを目的とする。

第4条 本大学に次の学部及び学科をおく。〔但し書等省略〕

人間科学部	—	人間基礎科学科
	—	人間健康科学科
	—	スポーツ科学科

〔他は省略〕

修業年限・在学年数

第5条 本大学の修業年限は、4年とする。但し、在学年数は、8年を超えることができない。（「Ⅲ. 在学の年限」の項を参照のこと）

学年・学期・休業日

第7条 本大学の学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

学年は次の2期に分ける。

前 期 4月 1日から9月20日まで

後 期 9月21日から翌年3月31日まで

第8条 定期休業日は次の通りとする。

- 一 日曜日
- 二 国の定める祝日（但し、祝日が日曜日と重なるときは翌日を休業日とする）
- 三 本大学創立記念日（10月21日）
- 四 夏季休業 8月1日から9月20日まで
- 五 冬季休業 12月中旬から翌年1月7日まで
- 六 春季休業 2月中旬から3月31日まで

2 夏季、冬季、春季休業期間の変更または臨時的休業日についてはその都度公示する。

第9条 休業中でも、特別の必要があるときは、授業をすることがある。

授業科目・単位数

第10条 各学部は、教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成するものとする。

2 教育課程の編成に当たっては、各学部は、その専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮するものとする。

第11条 教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目および自由科目に分け、これを各年次に配当して編成するものとする。

2 自由科目は、第52条に定める所定の単位数に算入しない。

3 他の学部属する授業科目を選択科目または自由科目として履修することができる。

第12条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して定める。

第13条 講義科目および演習科目については、15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。

2 実験、実習および実技については、30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって1単位とする。

3 卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定めることができる。

第19条 教員の免許状を得ようとする者は、所属学部の科目の外に教育学部に配置された教育課程の科目を履修しなければならない。

第23条 学生は毎学年または毎学期の始めに当該学年または学期に履修する科目を選定して所属の学部長の承認を得なければならない。

入学

第26条 入学時期は、毎学年または毎学期の始めとする。

保証人

第32条 保証人は、父兄又は独立の生計を営む者で確実に保証人としての責務を果し得る者でなければならない。保証人として不適当と認めたときは、その変更を命ずることができる。

第33条 保証人は、保証する学生の在学中、その一身に関する事項について一切の責任に任じなければならない。

第34条 保証人が死亡し、又はその他の事由でその責務を尽し得ない場合には、新たに保証人を選定して届けでなければならない。

第35条 保証人が住所を変更した場合には、直ちにその旨を届けでなければならない。

休学および復学

第36条 病気その他の理由で引続き2月以上出席することができない者は、その理由を具し、保証人連署で所属の学部長に願いで、その許可を得て休学することができる。病気を理由とする休学願には医師の診断書を添えなければならない。

第37条 休学は、当該学年限りとする。ただし、特別の事情のある場合には、引続き休学を許可することがある。この場合、休学の期間は、連続して2年を超えることができない。

2 休学の期間は、通算して4年を超えることができない。

第38条 休学期間中は、授業料の半額を納めなければならない。

第39条 休学者は、学期の始めでなければ復学することができない。

注：人間科学部では、学年の始めでなければ復学することはできない。

第40条 休学期間は、在学年数に算入しない。

(休学者の前期履修取得単位の取り扱いについて)

学部学生がある年度の後期から休学したとき、その年度の前期に履修した単位を取得した学科目がある場合には、復学時に、その学科目の単位を復学した年度に取得したものとして認める。この場合の単位数は、復学した年度の学部の履修制限単位数の中に含めるものとする。ただし、次の各号は、学部の上記履修制限単位数外として認めるものとする。

1 教職課程科目の単位

2 その他学部の履修制限単位数以外に履修できる学科目の単位

(注) 取得単位として認定を受けようとする学科目の登録は、復学時に所属学部で行うものとする。

転部・退学および再入学

第41条 他の学部転部を志願する者は、詮衡の上これを許可することがある。

2 前項の転部者の在学年数には、元の学部の在学年数の全部又は一部を算入することができる。この場合の在学年数は、第5条の規定による修業年限に満たない年数の2倍を超えてはならない。

第44条 病気その他の事故によって退学しようとする者は、理由を具し、保証人連署で願いでなければならない。

第45条 正当な理由で退学した者が再入学を志願したときは、詮衡の上これを許可することがある。この場合には、既修の科目の全部又は一部を再び履修することがある。

(退学者・抹籍者の再入学許可期限に関する規程)

第1条 正当な理由により退学を許可された者が、早稲田大学学則第45条の規定により再入学を願い出たときは、退学した学年の翌学年から起算して、次の学年度までの間に限り学年のはじめにおいて、これを許可することができる。

1. 学部7年度まで (2～4項省略)

第2条 前条の規定は、学費未納の理由により抹籍された者の再入学の許可に準用する。ただし、抹籍当時の事情およびその後の経過期間等を勘案して、当学年の中途といえども再入学を許可することができる。

懲戒

第46条 学生が本大学の規則若しくは命令に背き又は学生の本分に反する行為があったときは、懲戒処分に付することができる。

懲戒は、譴責、停学、退学の3種とする。

第47条 次の各号の一に該当する者は、退学処分に付する。

- 一 性行不良で改善の見込がないと認められる者
- 二 学業を怠り成業の見込がないと認められる者
- 三 正当の理由がなくて出席常でない者
- 四 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

試験

第49条 所定の科目を履修した者に対しては、毎学年末又は毎学期末に試験を行う。但し、教授会において平常点を以て試験に代えることを認められた科目については、この限りではない。

2 前項の定期試験の外に、当該学部の教授会の決議によって臨時に試験を行うことがある。

第50条 試験の方法は、筆記試験、口述試験及び論文考査の3種とし、各学部の教授会がこれを決定する。

第51条 試験の成績は、優・良・可・不可の4級に分ち、優・良・可を合格とし、不可を不合格とする。

卒業

第52条 本大学に4年以上在学して所定の試験に合格し、所定の単位を修得した者を卒業とし、学士の学位を授与する。

(学位規則)

第2条 本大学において授与する学位は、学士、博士および修士とする。

2 学士の学位は次の通りとする。

人間科学部……学士（人間科学）〔他は省略〕

授業料

第56条 学生が納めるべき入学金、授業料、施設費、実験実習料・体育費及び学生読書室図書費等は、別表のとおりとする。〔別表は省略〕

第57条 前条の納入期日は、次の通りとする。（後段省略）

第1期分納期日 5月1日まで

第2期分納期日 10月1日まで

第58条 すでに納めた授業料その他の学費は、事情の如何にかかわらず、これを返還しない。

第59条 学年の途中で退学した者でも、その期の学費はこれを納めなければならない。

抹籍

第60条 学費の納付を怠った者は、抹籍することがある。

外国留学をする場合の関連規程

(在学中に海外留学をする者の取り扱いに関する規程)

(留学の定義)

第2条 この規程にいう「留学」とは、次の各号の一に該当するものをいう。

- 一 所属する学部教授会または大学院の研究科委員会（以下「教授会等」という。）の許可を得て、外国の大学またはこれに相当する高等教育機関に1学年または1学期相当期間在学し、教育を受けるもの
- 二 教授会等の許可を得て、海外の研究機関に1学年または1学期相当期間在籍し、研究に従事し、または研修に参加するもの

(留学に必要な手続き)

第3条 留学をしようとする者には、あらかじめ次の書類を提出させたうえ、教授会等が許可を与える。

- 一 学部または大学院所定の留学願
 - 二 留学先となる外国の大学もしくはこれに相当する高等教育機関または海外の研究機関（以下「大学等」という。）が発行する入学許可証、受入書等
- 2 留学を終えた者には、次の書類を帰国後速やかに提出させる。
- 一 学部または大学院所定の帰国届
 - 二 留学先の大学等が発行する在学期間または在籍期間を明記した証明書

(留学期間)

第4条 在学中に留学できる期間は、原則として1年以内とする。ただし、特別の事情がある場合は、教授会等は留学期間の延長または再留学を許可することができる。

- 2 前項の規定にかかわらず、外国の大学との学術交流協定に基づく交換留学生の留学期間は、当該協定の定めるところによる。

(在学年数の取り扱い)

第5条 留学期間は、第10条第1項による場合を除き、在学年数に算入しない。

(留学中に修得した単位の認定)

第6条 留学期間中に留学先の大学等において修得した単位のうち、教授会等が適当と認めたものに限り、本大学の卒業または修了に必要な単位として認定することができる。

- 2 前項の規定により認定することのできる単位数は、次のとおりとする。
- 一 学部においては、30単位を超えない範囲
 - 二 大学院においては、10単位を超えない範囲

(留学期間前後の学習期間)

第7条 本大学の学部または大学院における留学前後の学習期間は、可能な限りこれを通算して、単位を修得できるよう取り計らうものとする。

(留学期間中の学費)

第8条 留学期間中は、1年間に限り、次の各号に規定する学費等を免除することができる。

一 授業料

二 実験実習料（教育学部社会教育専修および英語英文学科の実験実習料ならびに商学部の演習指導費は除く。）

三 演習料および実験演習料

四 学生読書室図書費

2 前項の規定にかかわらず、留学期間が1年を超える場合は、前項各号に規定する学費等のうち授業料については、その半額を徴収し、その他の学費等については、全額免除することができる。

3 第1項の規定にかかわらず、外国の大学との学術交流協定に基づく交換留学生の学費は、当該協定の定めるところによる。

(留学許可の取り消し)

第9条 留学を許可した者について、第2条に該当する留学生として不適当であると認められるような事情が生じた場合は、教授会等は、留学の許可を取り消すことがある。

2 前項の規定により留学の許可を取り消した場合は、前条の規定を適用しない。

(規定適用の特例)

第10条 学部の学生が留学期間中に修得した単位を教授会等が本大学の卒業に必要な単位として認定した結果、留学期間を含めて所定の修業年限で卒業に必要な所定の単位を修得した場合は、留学期間のうち1年または1学期を本大学の学部における在学年数に算入する。

2 第8条第1項の規定により学費等の免除を受けた者が、前項の規定により卒業となる場合は、免除した学費等のうち授業料および施設費相当額を徴収する。

附 則

(施行期日)

1 この規程は、1999年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 改正後の在学中に海外留学する者の取り扱いに関する規程の規定は、1999年度入学者から適用し、1998年以前の入学者については、なお従前の例による。

学生証等の取り扱いに関する規定

(規程の制定)

第1条 本大学が発行する学生証等の取り扱いについては、別に定めるもののほかはこの規程による。

(学生証の交付)

第2条 本大学は、学部、大学院、専攻科、国際部および専門学校（以下「学部等」という。）の学生に対し、その身分を証するために学生証を交付する。

2 学生証は、学生の所属する学部等で交付する。

3 学生証の様式については、別に定める。

(交付範囲)

第3条 学生証は、次の各号に規定する者に交付する。

一 学部等の正規学生

二 科目等履修生

三 大学院の一般研修生および委託研修生

四 大学院研究生

五 大学院外国人特別研修生

六 国際部において、国際部規則（昭和38年3月16日教務達第14号）第25条および第27条に規定する者以外で聴講を許可した者

七 専門学校の専修科学生および聴講生

(交付時期)

第4条 学生証は、次の各号に規定する時期に交付する。

一 前条第1号に規定する者に対しては年度が始まったとき。

二 前条第2号から第7号に規定する者に対しては、それぞれの入学手続を終えたとき。

(有効期間)

第5条 学生証の有効期間は、次の各号に規定する期間とする。

一 第3条第1号に規定する者のうち、国際部の学生以外の者については、4月1日から翌年3月31日までの期間。ただし、有効期間を経過した後も引き続き在学する者の学生証については、その有効期限を4月15日まで延長することができる。

二 第3条第1号に規定する者のうち、国際部の学生については、9月21日から翌年9月20日までの期間

三 第3条第2号から第7号に規定する者については、聴講を許可する期間

2 前項の規定にかかわらず、卒業、修了、退学、抹籍または除籍等により学生の身分を失った場合には、学生証はその時点で効力を失うものとする。

(再交付)

第6条 学生から学生証を紛失等した旨の届出があり、所定の手続を終えた場合は、学生の所属する学部等において、学生証を再交付するものとする。

2 学生証を再交付する場合は、別に定める料金を徴収する。

(返還)

第7条 卒業、修了、退学、抹籍または除籍等により学生がその身分を失った場合は、学生証を返還させるものとする。

(携帯ならびに貸与および譲渡の禁止)

第8条 学生証は、常に携帯させなければならない。

2 学生証は、他人に貸与または譲渡させてはならない。

(以下省略)

